

学 科	保育学科	担当教員名	小久保 圭一郎			
授 業 科 目	保育原理			科 目 区 分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期	
授業の主題 目 標	<授業の主題> 本教科では、保育の意義及び目的について理解し、保育所保育指針に書かれている内容を学び、理解します。また、保育の内容と方法、法令や制度の基本、歴史的変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察します。 <到達目標> ・保育の意義や保育に関する法令及び制度を理解し、説明できる。 ・保育所保育指針における保育の基本について理解し、説明できる。 ・保育の思想と歴史の変遷を理解し、これからの保育の課題について説明できる。					
授業の内容 進 め 方	1. 保育の理念とその概念 2. 保育における子どもの最善の利益 3. 保育と子ども家庭福祉 4. 保育の社会的役割とその責任 5. 保育及び子ども家庭福祉に関する法令と制度 6. 子ども・子育て新制度と保育の実施体系 7. 保育所保育指針における養護 8. 保育所保育指針における保育の目標と内容 9. 保育所保育指針における保育の方法と環境 10. 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環と子ども理解 11. 諸外国の保育思想とその歴史的変遷 12. 日本の保育思想とその歴史的変遷―近代― 13. 日本の保育思想とその歴史的変遷―戦後― 14. 諸外国の保育の現状とこれから、定期試験 15. 日本の保育の現状と今日的課題 定期試験は実施する					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	適宜レジュメ、資料等を配付します。 テキスト：厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀編著『新しい保育講座①保育原理』ミネルヴァ書房，2018 年 伊藤潔志編著『哲学する保育原理 第2版』教育情報出版，2021 年					
準備学習の 具体的内容	毎時間授業開始時に小テストを実施します。授業内配布のレジュメを読み込み、次回までに内容を記述できるようにしておいてください。					
評価の方法 基 準	試験(60%) 課題(20%) コメント・ペーパー(20%) 等により総合的に評価します。					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	保育学科	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育原理		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 教育というと学校での教育をイメージしがちですが、必ずしも教育＝学校ではありません。学校は「教育」のある部分を担ってはいますが、私たちは学校だけで成長しているわけではないのです。この授業ではまず、学校以外での教育を考えます。そして、教育についての基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、今日の学校というシステムを見つめ直し、人が一人前の人間へと育っていくということの本質を考えていきます。それはまた、幼児教育や保育の考え方へと繋がっていくのです。 <到達目標> ・様々な教育という働きについて理解し説明できる。 ・小学校以上の教育と幼児期の教育（保育）の考え方について理解しその違いを説明できる。 ・身近にある様々な教育の問題に興味を持ち自分なりの見解を持ち、理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 教育とは何か 2. なぜ教育が必要か 3. 日々の生活の営みにある教育—家庭・地域がもっていた教育力 4. 日々の生活の営みにある教育—子どもの遊び集団がもっていた教育的機能 5. 人が育つ環境としての現代社会の課題—家庭・地域・社会 6. 近代公教育制度の成立と学校 7. 学校の課題 8. 今日教育制度・保育制度の成立と学校 9. 近代教育思想の歴史 10. 子ども観と教育思想 11. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における教育の考え方 12. 幼児教育・保育と学校教育の違い 13. 生涯学習社会と教育 14. 安全教育と危機管理、定期試験 15. 現代教育の諸問題 定期試験は実施する				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜レジュメ、資料等を配付します。 テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：伊藤潔志編著『哲学する教育原理』教育情報出版，2019 年				
準備学習の 具体的内容	毎時間授業開始時に小テストを実施します。授業内配布のレジュメを読み込み、次回までに内容を記述できるようにしておいてください。				
評価の方法 基 準	試験(60%) 課題(20%) 授業中に課す課題への取り組み(20%) 等により総合的に評価します。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	子ども家庭福祉		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	（授業の主題） 子ども家庭福祉の意義や子どもの人権擁護について学ぶとともに、子ども家庭福祉の制度や実施体制について理解する。 （到達目標） 1. 子ども家庭福祉の意義について理解できる。 2. 子どもの人権擁護について理解できる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史的変遷 3. 子どもの人権擁護 4. 子ども家庭福祉の制度と実施体制 5. 子ども家庭福祉の施設と専門職 6. 少子化と地域子育て支援 7. 社会的養護 8. 子どもの健全育成 9. 子ども虐待の現状 10. 子ども虐待への対応 11. ドメスティックバイオレンスへの対応 12. 貧困家庭，外国籍の子どもとその家庭への対応 13. 障がいのある子どもへの対応 14. 少年非行等への対応 15. まとめ・定期試験				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して，体系的・実践的な相談援助の価値，知識，技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	公益財団法人児童育成協会監修／新保幸男・小林理編集『新・基本保育シリーズ 3 子ども家庭福祉（第 2 版）』中央法規 2022 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で，調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%），コメントシート（30%），定期試験（60%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	社会福祉		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	(授業の主題) 社会福祉の意義、制度や実施体系について学ぶとともに、社会福祉における相談援助について理解する。 (到達目標) 1. 社会福祉の意義について理解できる。 2. 社会福祉の制度や実施体系について説明できる。 3. 社会福祉における相談援助について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 社会福祉の理念 2. 子ども家庭支援と社会福祉 3. 社会福祉の歴史の変遷 4. 社会保障および関連制度の概要 5. 社会福祉の制度と法体系 6. 社会福祉の行財政と実施機関 7. 社会福祉施設と社会福祉の専門職 8. 相談援助の理論 9. 相談援助の意義と機能 10. 相談援助の対象と過程 11. 相談援助の方法と技術 12. 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 13. 共生社会の実現と障がい者施策 14. 在宅福祉・地域福祉の推進 15. まとめ・定期試験				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	公益財団法人児童育成協会監修／松原康雄・坪洋一・金子充編集『新・基本保育シリーズ 4 社会福祉 (第2版)』中央法規 2022 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べるが必要な事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度 (10%)，コメントシート (30%)，定期試験 (60%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	子ども家庭支援論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	（授業の主題） 子育て家庭に対する支援の意義について学ぶとともに、子育て家庭に対する支援の体制や支援の展開について理解する。 （到達目標） 1. 子育て家庭に対する支援の意義について理解できる。 2. 子育て家庭に対する支援の体制について理解できる。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開について説明できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 子ども家庭支援の意義と必要性 2. 子ども家庭支援の目的と機能 3. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 5. 子ども家庭支援と子どもの育ちの喜びの共有 6. 保育者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 7. 保育士に求められる基本的態度 8. 家庭の状況に応じた支援 9. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 10. 子ども家庭支援の内容と対象 11. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 12. 地域の子育て家庭への支援 13. 要保護児童およびその家庭に対する支援 14. 子育て支援に関する課題と展望 15. まとめ・定期試験				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	公益財団法人児童育成協会監修／松原康雄・村田典子・南野奈津子編集『新・基本保育シリーズ5 子ども家庭支援論（第2版）』中央法規 2022年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べるが必要な事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%）、コメントシート（30%）、定期試験（60%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	社会的養護 I		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	（授業の主題） 社会的養護の意義、制度や実施体系について学ぶとともに、社会的養護の対象や形態、専門職について理解する。 （到達目標） 1. 社会的養護の意義について理解できる。 2. 社会的養護の制度や実施体系について理解できる。 3. 社会的養護の対象や形態、専門職について説明できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 現代社会と社会的養護 2. 社会的養護の国際的発展とわが国の特徴 3. 社会的養護の理念 4. 社会的養護の基本原則 5. 社会的養護の対象と体系 6. 社会的養護施設における支援の基本 7. 社会的養護施設の類型と支援概要（1）養護系施設 8. 社会的養護施設の類型と支援概要（2）障がい系施設・治療系施設 9. 社会的養護施設における支援技術 10. 社会的養護施設での支援の実際 11. 家庭養護（1）養子縁組 12. 家庭養護（2）里親 13. 社会的養護施設の運営管理 14. 社会的養護の課題と展望 15. まとめ・定期試験				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	宮崎正宇・大月和彦・櫻井慶一編著『新・保育ライブラリ 保育・福祉を知る 社会的養護 I』北大路書房 2020 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べるが必要な事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%）、コメントシート（30%）、定期試験（60%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育学科		担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	保育者論			科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期	
授 業 の 主 題 目 標	<授業の主題> 本教科では、保育者の専門性、役割、協働、資質向上とキャリア形成について概説します。具体的には、保育者の専門性とは何か、期待される役割とその課題、協働という観点から他の保育者、保護者、地域と協力、連携しながらすすめる保育、キャリア形成の意義について考察します。その上で、幼稚園教諭、保育教諭、保育士の職について理解し、目指す保育者についてのイメージを明確にすることを目指します。 <到達目標> ・保育者の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の役割と倫理、制度的な位置づけ、協働、キャリア形成について理解する。 ・目指す保育者を思い描くことができる。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンスーこれまで出会った「保育者」「先生」を振り返る 2. 保育者の役割と職務内容・倫理 3. 保育者の制度的位置づけと資格・要件 4. 保育者の専門性と資質・能力 5. 保育者の専門性と環境を通して行う教育 6. 保育者の専門性と子ども理解 7. 保育者の専門性と遊びを通しての総合的指導 8. 養護と教育の一体的展開 9. 家族との連携及び子育て・保護者支援 10. 子ども理解に基づく計画・実践とその評価 11. 保育の質向上と人材育成 12. 職員間の連携・協働と同僚性 13. 専門機関及び地域の関係機関との連携・協働 14. 保育者の資質向上とキャリア形成 15. 目指す保育者像と専門性の獲得 定期試験は実施しない					
実務経験を活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	適宜レジュメ、資料等を配付します。 テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：高橋貴志『これからの保育者論－日々の実践に宿る専門性』萌文書林，2017 年					
準備学習の具体的内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくにより理解が深まります。					
評価の方法基準	最終レポート(60%) 授業内課題 (30%) コメント・ペーパー(10%) 等により総合的に評価します。					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	保育学科	担当教員名	小久保 圭一郎			
授 業 科 目	教育の制度と社会			科 目 区 分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期	
授 業 の 主 題 目 標	<授業の主題> 本教科では、教育・保育の制度、現在の社会の状況から生じる教育・保育の課題とそれに対応するための教育・保育政策の動向、就学前の教育・保育機関と地域との連携や学校安全について、演習形式で議論しながら理解を深めます。その上で、教育・保育の現状と課題を、それを取り巻く社会との関連という観点から考察し、社会の変化が教育・保育にもたらす影響と生じる課題、教育・保育政策の動向を理解することを目指します。 <到達目標> ・教育・保育の制度や近年の保育改革及び保育政策の動向を理解し、議論できる。 ・子どもの生活とその変化から就学前の教育・保育にかかわる諸課題を考察できる。 ・就学前の教育・保育機関と地域との連携の意義や現状と課題について理解し、議論できる。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンスー日本の教育・保育制度と社会の概観 2. 子どもの生活と発達 3. 子どもの生活と遊び 4. 制度面からみた幼稚園と保育所の歴史ー戦前 5. 制度面からみた幼稚園と保育所の歴史ー戦後 6. 制度面からみた幼稚園と保育所の歴史ー現代 7. 認定こども園とその制度 8. 諸外国の保育制度 9. 保育政策の動向と子育て支援 10. 地域との連携から見た子育て支援の現状と課題 11. 保育に係る諸課題ー子どもの貧困・虐待 12. 保育に係る諸課題ー保育士不足と待機児童問題 13. 保育に係る諸課題ー職場環境の改善 14. 保育に係る諸課題ー家庭との連携 15. まとめー日本の教育・保育制度と社会における今日的課題の検討 定期試験は実施しない					
実務経験を活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	適宜資料等を配付します。 テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018 年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021 年 参考書：森上史朗・大豆生田啓友編著『よくわかる保育原理 第4版』ミネルヴァ書房，2015 年 伊藤潔志編著『哲学する保育原理』教育情報出版，2018 年					
準備学習の具体的内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくにより理解が深まります。					
評価の方法基準	レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	保育学科	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	発達心理学 I		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	本講義では発達心理学に基づいて、子どもの発達を捉える視点や乳幼児の発達過程について学ぶ。また、乳幼児の学びを支える保育について考える。 <到達目標> (1) 心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点を理解している。 (2) 発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本を理解できる。 (3) 乳幼児期の学びの過程や特性の基礎知識を習得し、学習を支える指導の基本が理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 子どもの発達の理解とその意義 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 「理解」の歴史 (2) 発達の記述と説明 (3) 臨床的な理解の活かし方 他. 2. 子どもの発達と環境 (1) 子どもを取り巻く環境と発達 (2) 環境を通した保育 (3) 現代の環境を取り巻く課題 他. 3. 発達観、子ども観と保育観 (1) 発達の「イメージ」から考える発達観 (2) 子どもとの関わりに現れる発達観と子ども観 (3) 子どもを子どもの側から見る 他. 4. 保育実践の評価 (1) 保育における評価の意義 (2) 評価の分類と方法 (3) ドキュメンテーション／レーニング・ストーリー 他. 5. 社会情動的発達① 自己と感情 (1) 乳幼児期の自己形成と感情 (2) 乳幼児の自己意識の発達 (3) 自己主張、自己抑制への対応 他. 6. 社会情動的発達② 他者理解／他者とのかわり (1) 他者の内的状態の理解 (2) 他者の感情への気づき (3) 人への志向性 (4) ソーシャル・スキルの習得 他. 7. 身体的機能と運動機能の発達 (1) 身体の発達と反射 (2) 運動能力の発達および幼児期の運動指導 (3) 運動とほかの能力の関係 他. 8. 認知の発達① 認識の基礎 (1) 知覚の発達 (2) 知的能力・認知 (3) 外界とのかわり (4) 遊びとイメージ (5) 記憶と時間 他. 9. 認知の発達② 数と形 (1) 生得的な数量システム (2) 形の認識 (3) 幼児期の数量活動 (4) インフォーマル算数を支える保育者の役割 他. 10. 認知の発達③ 言葉と文字 (1) 言葉のはたらきと発達 (2) 話し言葉・書き言葉の獲得 (3) 親しい人と育む言葉 他. 11. 乳幼児期の学びにかかわる理論 (1) 子どもにとっての学び (2) 行動主義・観察学習 (3) 認知主義・構成主義 (4) 共同体と学び 他. 12. 乳幼児期の学びの過程と特性① 認知的学び (1) 遊びを通した学び (2) 園や家庭での援助 (3) 文化的信念・言葉の影響 (4) 予測・理解 他. 13. 乳幼児期の学びの過程と特性② 社会情動的学び (1) 社会的情動的学び (2) かかわりあいでの「学び」 (3) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 他. 14. 乳幼児期の学びを支える保育 (1) 学びを支える保育の課題 (2) 遊びにおける問題解決と思考力 (3) 小学校との連携と接続 他. 15. まとめ、定期試験 定期試験を実施する				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	・ 杉村伸一郎・山名裕子（編）『新基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学』中央法規／ISBN978-4-8058-5788-5 ・ 『保育所保育指針』フレーベル館／ISBN978-4-577-81423-9 ・ 『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 ・ その他適宜資料配布				
準備学習の 具体的内容	テキストおよび授業資料について予習・復習をする。				
評価の方法 基 準	定期試験(80%) 授業で提出するレポート (20%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習が必要となる。 第1回目授業ではシラバスを持参すること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	長 櫓 涼 子（実務経験あり）・平岡 敦子（実務経験あり）		
授 業 科 目	発達心理学Ⅱ		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	本講義では、生涯発達の過程や発達に関わる基本的問題について学ぶ。また、親子関係・家族関係を含む家族・家庭の意義や機能、多様な家庭の在り方、子育て家庭に関する現状と課題を学ぶ。 <到達目標> (1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 (2) 家族・家庭の意義や機能を理解しながら、親子関係や家族関係等を理解し、包括的に捉える。 (3) 子育て家庭をめぐる現代の状況や課題を知る。 (4) 子どもや保護者の精神保健の問題とその課題について理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 乳児期の発達と特徴（担当：長櫓） 2. 幼児期の発達と特徴（担当：長櫓） 3. 学童期の発達と特徴（担当：長櫓） 4. 青年期の発達と特徴（担当：長櫓） 5. 成人期・中年期の発達と特徴（担当：長櫓） 6. 高齢期の発達と特徴（担当：長櫓） 7. 子どもの生活・生育環境とその影響（担当：長櫓） 8. 子どものこころの健康にかかわる問題① 心身に関わる障害（担当：長櫓） 9. 子どものこころの健康に関わる問題② 発達に関わる障害（担当：長櫓） 10. 家族関係・親子関係の理解（担当：平岡） 11. 子育ての経験と親としての育ち（担当：平岡） 12. 子育てを取り巻く社会的状況（担当：平岡） 13. ライフコースと仕事・子育て（担当：平岡） 14. 多様な家庭・特別な配慮を要する家庭（担当：平岡） 15. まとめ、定期試験（担当：長櫓・平岡） 定期試験を実施する				
実務経験を 活かす内容	幼児の発達巡回指導、小学校での特別支援事業での経験を活かし、子どもの発達特徴と支援、心の健康などを講じ、具体的な関わりについて提示する。（長櫓） 助産師としての臨床経験を活かして、育児相談等、親子・家庭支援の実務経験を活かし、子どもの心の健康や家族・家庭への支援方法について具体例を用いて講じる。（平岡）				
テ キ ス ト 教 材	・白川佳子・福丸由佳（編）『新基本保育シリーズ⑨子ども家庭支援の心理学』中央法規／ISBN978-4-8058-5789-2 ・『保育所保育指針』フレーベル館／ISBN978-4-577-81423-9 ・『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 ・その他適宜資料配布				
準備学習の 具体的内容	・授業資料やテキストの該当部分を予習・復習をする。				
評価の方法 基 準	定期試験（80%） 授業に提出するレポート（20%）				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる場合がある。 第1回目授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	幼児理解の理論と方法		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	本講義は, 子どもの発達や学びに関する心理学の知見を単なる知識にとどめず, 保育実践に即して使うことを考えていく。講義や演習を通して, 実際の子どものイメージしながら理解を深め, 援助や態度について学ぶ。 <到達目標> (1) 子ども一人ひとりの実態に応じた心身の発達や学びを把握することの意義を理解できる。 (2) 子ども理解の上での基本的な考えや態度を身につける。 (3) 子どもを理解するための具体的な方法を考え, 援助や態度に結びつけられる。				
授業の内容 進 め 方	- 子ども理解の意義 シラバスを参考に授業内容と進め方, 評価方法等を解説 (1) 保育者の仕事と子ども理解 (2) 演習課題 (3) 子ども理解の段階 他. - 子どもに対するかかわりと共感的理解 (1) 共感的理解, 本質的態度と方法 (2) 演習課題 (3) 遊戯療法の8原則 他. - 子どもの生活や遊び (1) 乳幼児の生活と基本的生活習慣・遊び (2) 演習課題 (3) 安全の確保 他. - 人的環境としての保育者と子どもの発達 (1) 子どもの発達と保育者の役割 (2) 演習課題 (3) 子どもの発達と人的環境の相互作用 他. - 子どもの相互のかかわりと関係づくり (1) 3歳未満児におけるかかわり (2) 3歳以上児におけるかかわり (3) 演習課題 (4) 子ども相互のかかわりについて 他. - 集団における経験と育ち (1) 集団の種類と特徴 (2) 演習課題 (3) 保育者の役割 他. - 発達における葛藤やつまずき (1) 葛藤やつまずきと保育者の援助 (2) 演習課題 (3) 攻撃行動の多い子ども, 自己制御について 他. - 保育の環境の理解と構成 (1) 環境について (2) 演習課題 (3) アフォーダンス 他. - 環境の変化や移行 (1) 環境の変化や移行について (2) 演習課題 (3) 環境の変化や移行と保護者 他. - 子ども理解のための観察・記録と省察・評価 (1) 子どもを理解する方法 (2) 演習課題 (3) 子ども理解と保育のプロセス 他. - 子ども理解のための職員間の対話 (1) 保育における対話と協働 (2) 保育カンファレンス (3) 演習課題 (4) 地域との協働 他. - 子ども理解のための保護者との情報共有 (1) 保護者との情報共有について (2) 情報共有の意義 (3) 演習課題 (4) 情報共有のポイント 他. - 発達の課題に応じた援助とかかわり (1) 個人差と発達過程 (2) 発達の最近接領域 (3) 演習課題 (4) 発達課題に応じた実践・援助 他. - 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (1) インクルーシブ保育 (2) 演習課題 (3) 特別な配慮を要する子どもの理解, 援助 (4) 合理的配慮 他. - 発達の連続性と就学への支援 (1) 幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性 (2) 演習課題 (3) 放課後児童クラブ 他. 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	・清水益治・森俊之(編)『新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助』中央法規/ISBN978-4-8058-5790-8 ・『幼稚園教育要領』フレーベル館/ISBN978-4-577-81422-2				
準備学習の 具体的内容	演習課題の方法について授業で解説する。 準備物が必要な場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業における課題 (50%) 幼児理解と援助に関する最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習, 課題遂行が必要となる場合がある。 第1回目授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	平岡 敦子（実務経験あり）		
授 業 科 目	子どもの保健		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	受胎から人間の生命は始まり，出生以後からの人とかかわりの中で成長発達を繰り返し成熟する。その中で乳幼児期の健康概念や自己管理能力の獲得は生涯に渡る重要な健康管理能力の獲得に重要である。保育者として健康とは何か，日常的に行われる保健的活動，大切な命を守り健康の保持増進のためにはどうすればよいのかを理解するための基礎的な知識について学習する。 受講生は，保健の概念，子どもの健康・生理的狀態（バイタルサインの正常値など），子どもの病気の特徴について理解することを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	本科目は，以下の手順に沿って進められる。 1. オリエンテーション 子どもの健康と保健の概念と意義 2. 健康の概念健康指標 3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 4. 地域における保健活動と子ども虐待防止 5. からだの仕組み：身体の器官とその仕組みおよび生理機能の仕組み 6. 生活リズムと子どもの健康：睡眠リズムと生活リズム 7. 健康状態の観察と評価 8. 子どもの精神保健～子どもの心身の発達と心の病気 9. 子どもの病気：子どもが病気になるということとその影響 10. 子どもの病気：子どもが罹患しやすい病気とその対応 11. 子どもの主な病気：小児感染症と予防対策 12. 子どもの主な病気：免疫とアレルギー 13. 子どもの病気：先天性疾患（ダウン症など）と慢性疾患 14. 母子保健の現状・母子保健行政 15. まとめ 試験				
実務経験を 活かす内容	助産師としての臨床経験を活かして，保育の現場における子どもの健康および発達状態の理解と考察，保健活動を実践するために必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	テキスト：『子どもの保健 新基本保育シリーズ⑪』公益財団社会法人児童育成協会（中央法規） 『子どもの保健演習ノート 改訂第3版』診断と治療社，『保育所保育指針』 ※参考図書の紹介や資料配布は，授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	履修にあたって，生物学，保健で学んだ保健や身体の仕組みといった内容について見直しをしておくことをすすめる。				
評価の方法 基 準	定期試験（80%），レポート課題（20%）				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して事前学習を求めることがある。また，授業内容は自主的にノートを取り，それを整理するなど主体的に出席する事。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	小野 尚美		
授 業 科 目	子どもの食と栄養		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし、子どもたちを取り巻く食環境には、子どもたちの健やかな発育・発達をおびやかす要因が多く存在する。そのような中、平成17年に食育基本法が制定され、その後改定、告示された「保育所保育指針」には食育の推進が明記され、保育の中で食育の実践が求められている。 子どもの食と栄養では、栄養の基本的な知識とともに、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解する。また、子どもの食生活の現状を知り、そこで起こっている問題にどのように対応するか（食育を実践していくか）を考える。				
授業の内容 進 め 方	1. 子どもの心身の健康と食生活 2. 子どもの食生活の現状と課題 3. 栄養の基本的概念と食事摂取基準 栄養に関する基礎知識 (1)炭水化物 4. 栄養に関する基礎知識 (2)脂質 5. 栄養に関する基礎知識 (3)たんぱく質 6. 栄養に関する基礎知識 (4)ミネラル・試験 7. 栄養に関する基礎知識 (5)ビタミン、水 8. 食べ物の消化と吸収 (1)食べ物の消化過程 9. 食べ物の消化と吸収 (2)栄養素の吸収と未消化物の排泄 10. 子どもの発育・発達の特徴、発育と栄養状態の評価・試験 11. 胎児期（妊娠期）の食生活 12. 学童期・思春期の心身の特徴と食生活 13. 食育の基本と内容 14. 子どもの栄養・食生活上の問題とその対応 15. 調理の基本・試験 16. 献立の作成 17. 乳児期の食生活 (1)乳汁栄養 18. 乳児期の食生活 (2)調乳 19. 乳児期の食生活 (3)離乳の意義、離乳食の進め方 20. 乳児期の食生活 (4)離乳食作り 21. 幼児期の食生活 (1)幼児期の食生活の特徴 22. 幼児期の食生活 (2)1～2 歳児の食事 23. 幼児期の食生活 (3)3～5 歳児の食事 24. 幼児期の食生活 (4)保育所給食と食育 25. 幼児期の食生活 (5)間食の必要性、間食の与え方 26. 幼児期の食生活 (6)間食作り 27. 幼児期の食生活 (7)幼児期の食行動 28. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)体調不良の子どもへの対応 29. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)食物アレルギーのある子どもへの対応 30. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (3)慢性疾患のある子どもへの対応				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『最新 子どもの食と栄養―食生活の基礎を築くために―』（学建書院） 『新ビジュアル食品成分表』（大修館書店）				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で課題を出すことがある。				
評価の方法 基 準	試験 (50%) レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業では、プリントを配布するので、ノートを準備する必要はない。 授業で実習をする場合、材料費は自己負担となる。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	眞次 浩司（実務経験あり）		
授 業 科 目	特別支援教育		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	特別支援学校や幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等において、様々な障がいのある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。本科目では、特別支援教育の対象であるそれぞれの障がいの理解と指導内容・方法等の基本的事項について解説する。 授業の到達目標 1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障がい特性及び心身の発達について知り、説明できる。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について知り、説明できる。 3. 障がい児以外の特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の存在や支援の方法を知り、説明できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 特別支援教育の理念 2. 特別支援学校に関する法規定と現状 3. 通常の学校に関する規定と現状 4. 知的障がい児に対する教育的支援－総論－ 5. 知的障がい児に対する教育的支援－支援－ 6. 肢体不自由児に対する教育的支援－総論－ 7. 肢体不自由児に対する教育的支援－支援－ 8. 自閉症（ASD）児に対する教育的支援－総論－ 9. 自閉症（ASD）児に対する教育的支援－支援－ 10. 注意欠如多動症（ADHD）児に対する教育的支援－総論－ 11. 注意欠如多動症（ADHD）児に対する教育的支援－支援－ 12. 学習障がい（SLD）児に対する教育的支援－総論－ 13. 学習障がい（SLD）児に対する教育的支援－支援－ 14. インクルーシブ教育の合理的配慮－自立活動－ 15. インクルーシブ教育の実践課題 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	特別支援学校での教育経験を活かし、特別支援教育の対象・教育課程の編成・配慮事項・インクルーシブ教育システムの実践を教授します。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省（編）（2021）『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ 第1編・第2編』 https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_tokubetu01-000016487_01.pdf 令和3年12月13日アクセス 文部科学省（編）（2021）『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～ 第3編』 https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_tokubetu01-000016487_02.pdf 令和3年12月20日アクセス 文部科学省（編）（2021）『小学校等における 医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～』 https://www.mext.go.jp/content/20211014-mxt_tokubetu02-000016487_3.pdf 令和3年12月13日アクセス 西岡育子（編）（2017）『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業後のレポートをS（4点）～D（0点）で評価し、全15回分の総点を100点に傾斜配点し、評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。 テキストに示している文部科学省の手引き・資料は、PDFをGoogle Classroomに掲示します。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	長 櫓 涼 子（実務経験あり）		
授 業 科 目	教育相談		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	教育相談は、幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。発達状況に即し、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎知識を学ぶ。 <到達目標> (1)教育相談の意義と理論を理解する。 (2)教育相談に必要な基礎知識(カウンセリングマインドに基づいたカウンセリング技法)を身につける。 (3)各発達期の特徴と諸問題を理解し、計画に基づいた組織的な取り組みや連携を理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 教育相談の理解 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1)教育相談の定義、意義、目的 (2)教育相談の種類(問題解決的教育相談／予防的教育相談／開発的教育相談) (3)教育相談の担い手(SC／SSW／教員) 2. 教育相談の基礎理論—① 精神分析理論 3. 教育相談の基礎理論—② 行動療法・認知療法 4. 教育相談の基礎理論—③ 来談者中心療法 5. 教育相談の方法—① (1)カウンセリングマインドについて (2)傾聴技法 6. 教育相談の方法—② (1)面接のモデルと技法の学び方 (2)教育相談の方法に関するまとめ 7. 子どもの発達段階とその課題（乳幼児期／児童期／青年期） 8. 子どもの抱える困難さへの対応—①反社会的行動の理解と対応（非行・不良行為／いじめ／暴力） 9. 子どもの抱える困難さへの対応—②反社会的行動の理解と対応（喫煙・飲酒・薬物乱用） 10. 子どもの抱える困難さへの対応—③非社会的行動の理解と対応（ひきこもり／自殺） 11. 子どもの抱える困難さへの対応—④特別な支援を必要とする子どもの理解と対応（ADHD／LD／自閉症） 12. 子どもの抱える困難さへの対応—⑤外国にルーツを持つ子どもの理解と対応 13. 教育相談の展開—① チームで行う教育相談 / 育てる教育相談 14. 教育相談の展開—② 教育相談の担い手としての成長 15. まとめ 定期試験を実施しない				
実務経験を 活かす内容	幼児の発達巡回指導、小学校での特別支援事業での経験を活かし、子どもの抱える困難さへの対応について講じる。				
テ キ ス ト 教 材	・高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男(編著)『MINERVA はじめて学ぶ教職⑩ 教育相談』ミネルヴァ書房／ISBN978-4-623-08526-2 ・『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 ・その他適宜資料配布				
準備学習の 具体的内容	テキストおよび授業資料について予習・復習をする。				
評価の方法 基 準	授業における課題(30%) 教育相談に関する最終レポート(70%)				
履 修 上 の 注 意	保育士資格、幼免に係る選択必修科目となるため、資格・免許取得希望者は必ず履修すること。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	幼児教育課程論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	(授業の主題) 教育課程の全体構造, 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園における全体的な計画と指導計画との関係, 指導計画の種類とその内容, 指導計画作成の手順と評価の基本を学び, 実際に指導計画を作成することを通して, 計画, 実践, 評価, 改善とこれらの循環サイクルについて理解する。 (到達目標) 教育課程・全体的な計画及び指導計画の意義と編成について理解し, カリキュラム・マネジメントの実践方法を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 乳幼児教育における教育課程の意義と目的, その編成の実際についての理解 2. 幼稚園の保育内容の変遷 3. 幼稚園教育の目的, 目標と保育内容の基本構造 4. 幼児の生活経験や発達過程などを考慮したねらいと内容 5. 教育課程の編成上の留意事項 (1) 乳幼児の生活や主体的な活動を考慮した教育課程の編成 6. 教育課程の編成上の留意事項 (2) 家庭との連携 7. 教育課程の編成上の留意事項 (3) 小学校教育との接続 8. 幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育課程の編成 9. 教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動など 10. 教育課程を踏まえた全体的な計画の作成 11. 乳幼児の活動に沿った組織的, 発展的な指導計画の作成と評価 12. カリキュラム・マネジメント (PDCA サイクル) の実際 (1) 教育課程や保育の改善 13. カリキュラム・マネジメント (PDCA サイクル) の実際 (2) 学校評価 14. 社会に開かれた教育課程の実現 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	萌文書林編集部『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林 文部科学省『幼稚園教育要領解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 ※参考図書の提示や資料配布などは, 授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	授業中に指示される課題に取り組む小レポートの作成・提出が求められる。 配付する資料を読み直し, 保育・教育の実践への応用を検討することが求められる。				
評価の方法 基 準	発表・レポート課題 (20%) プレゼンテーション (20%) 講義内容に関する筆記試験 (60%)				
履 修 上 の 注 意	保育の基本的な仕組みについて考える。 保育の目標と方法, 子どもの発達を踏まえつつ, 保育現場で行われている実際の保育を検証していく。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	太田 千栄子		
授 業 科 目	保育方法技術論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	幼稚園教育の基本について理解を深め、幼児期の発達の特徴を踏まえた遊びを通しての総合的な指導の在り方について学習する。 (到達目標) ・保育実践の事例を通して、幼児理解の仕方・環境の構成・教師の援助の在り方について理解を深め、多様な保育場面に対応した援助を提供することができるようになる。 ・情報機器を活用し、教材作成の技術と方法を学ぶことで、その仕組みを知ることができる。 ・主体的・対話的な保育援助ができるようになる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 幼稚園教育の基本と重要性 2. 幼児期の発達の特徴と指導 3. 幼児理解と教師の姿勢 4. 幼児期の生活と遊び・教師の役割 5. 指導計画と保育の実践 6. 保育内容 (3 歳児の生活と遊び・環境の構成と教師の援助) 7. 保育内容 (4 歳児前半の生活と遊び・環境の構成と教師の援助) 8. 保育内容 (4 歳児後半の生活と遊び・環境の構成と教師の援助) 9. 保育内容 (5 歳児前半の生活と遊び・環境の構成と教師の援助) 10. 保育内容 (5 歳児後半の生活と遊び・環境の構成と教師の援助) 11. 保育内容 (基本的な生活習慣の形成, 健康・安全に関する指導) 12. 保育内容 (行事の指導と視聴覚・情報機器の活用) 13. 保育内容 (家庭・地域との連携, 小学校教育との接続) 14. 学級経営と人権教育 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) ※必要に応じて資料配布				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (70%) 授業ごとに提出するレポート (30%)				
履 修 上 の 注 意	幼稚園教諭免許取得上では必修科目である。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	馬場 訓子		
授 業 科 目	保育内容総論		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に規定される保育の基本的な考え方や構造を理解し、総合的な保育の在り方について学修する。また、具体的な演習を通して、保育者の援助や環境構成について考える。授業の目標は以下の3つである。 1. 保育の基本や各領域に示されるねらい及び内容を踏まえ、総合的な保育の在り方について考えることができる。 2. 子どもが経験し身につけていく内容と保育者の援助や環境構成について考えることができる。 3. 具体的な保育を想定した指導案の作成について考えることができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 保育の基本と現代の子どもを取り巻く環境 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 要領・指針に見る保育内容 4. 「遊び」からとらえる保育内容 5. 「環境」からとらえる保育内容 6. 「発達」からとらえる保育内容 7. 「生活」からとらえる保育内容 8. 子ども理解と保育者の援助 9. 保育の構造と保育形態・方法 10. 保育の計画（1）教育課程と全体的な計画 11. 保育の計画（2）長期指導計画及び短期指導計画 12. 指導計画作成の基本 13. 多様な保育内容の展開 14. 保育の計画と実践・評価（模擬保育） 15. 現代における保育の課題、試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「保育所保育指針解説」厚生労働省，平成 30 年，フレーベル館。 「幼稚園教育要領解説」文部科学省，平成 30 年，フレーベル館。 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省，平成 30 年，フレーベル館。 その他，適宜プリントを配布する。				
準備学習の 具体的内容	各回の授業終了時に予習・復習，課題内容について具体的に説明する。				
評価の方法 基 準	授業時に提出するレポート等（50%） 試験（50%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	健康の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	(授業の主題) 領域「健康」に示されているねらいや内容について理解し、子どもが幼稚園や保育所等で健康的な生活を送るための具体的な指導内容や方法を習得する。 (到達目標) 1. 領域「健康」のねらいと内容について理解できる。 2. 乳幼児期の発達発達について理解できる。 3. 領域「健康」に関する具体的な指導内容や方法を身につける。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、領域「健康」の目的とねらい 2. 領域「健康」の内容①：自ら体を動かして活動することを喜ぶために 3. 乳幼児期における運動指導のあり方 4. 乳幼児の身体活動や動きを引き出す指導①：ボールを使った運動遊び 5. 乳幼児の身体活動や動きを引き出す指導②：ドッジボールの展開 6. 乳幼児の身体活動や動きを引き出す指導③：マットを使った運動遊び 7. 乳幼児の身体活動や動きを引き出す指導④：鉄棒を使った運動遊び 8. 乳幼児の身体活動や動きを引き出す指導⑤：跳び箱を使った運動遊び 9. 乳幼児の身体活動や動きを引き出す指導⑥：水遊び・プール活動 10. 領域「健康」の内容②：生活のリズムや習慣を必要感をもって身に付けるために 11. 乳幼児の基本的生活習慣の定着過程と指導①：食事，睡眠 12. 乳幼児の基本的生活習慣の定着過程と指導②：排泄，着脱，清潔 13. 領域「健康」の内容③：健康や安全な生活に自ら気付き進めるために 14. 園の防災教育：地震に着目して 15. 健康的な保育実践に関するまとめと筆記試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『事例で学ぶ保育内容 領域健康』(萌文書林) 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)				
準備学習の 具体的内容	授業で扱う具体的な指導場面をもとに、子どもの実態に基づく保育者の環境構成や援助のあり方について考えること。				
評価の方法 基 準	各授業回における提出物 (20%) 筆記試験 (80%)				
履 修 上 の 注 意	体育館で授業を行う際は、ジャージ等の運動ができる服装，体育館用シューズ，タオル，水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	人間関係の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	(授業の主題)「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」「保育所保育指針」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びが実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。 (到達目標) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な保育場面を想定した保育を構想する方法を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 幼児教育の保育内容のとらえ方と領域「人間関係」 2. 領域「人間関係」における保育及び教育の目標 3. 0 歳児保育における身近な人と気持ちを通じ合う保育実践と援助の在り方 4. 1・2 歳児保育における保育者の役割と援助の在り方 5. 自立心および協同性を育む保育実践と援助の在り方 (指導案作成, 模擬保育を含む) 6. 道徳性・規範意識の芽生えを育む保育実践と援助の在り方 (指導案作成, 模擬保育を含む) 7. 個と集団の育ちを高める保育者の援助の在り方 8. 遊びを通して身近な人と親しむ保育の実践 (いざこざ場面) 9. 遊びを通して身近な人と親しむ保育の実践 (規範意識) 10. 遊びを通して身近な人と親しむ保育の実践 (協同的な活動) 11. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から幼小の連続性を捉える 12. 集団づくりをねらいとした保育・指導の実践 (教材研究, 情報機器及び教材の活用を含む) 13. 集団づくりをねらいとした実践と計画 (教材研究, 情報機器及び教材の活用を含む) 14. 領域「人間関係」の現代的諸問題と保育実践の動向 15. まとめ・試験				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	萌文書林編集部『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林 文部科学省『幼稚園教育要領解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年施行)』フレーベル館 ※参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の具体的内容	具体的な保育場面をイメージできるよう、保育関連の雑誌や保育所・幼稚園等のウェブサイトなどから、保育のカリキュラムの実践に触れておくことを求める。				
評価の方法基準	発表・レポート課題 (20%) 各回の演習シート (20%) 講義内容に関する筆記試験 (60%)				
履 修 上 の 注 意	グループでの演習を取り入れながら進める。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	大江 由美		
授 業 科 目	環境の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	授業の主題 ・幼児を取り巻く身近な環境や幼児と環境のかかわりに関するねらいと内容、意義について理解する。 ・幼児が様々な事象に興味関心や好奇心をもち体験する事柄について理解する。 ・生活や遊び食育の中で出会う自然事象や社会事象などについて、幼児が身近な環境に主体的に関わり発達していくことができるよう、保育の計画と実践について理解を深める。 目 標 ・領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し説明できる。 ・様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、小学校以降の教科等とのつながりを説明できる。 ・領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し保育を構想する方法や視点を身につける。				
授業の内容 進 め 方	授業の内容と進め方 1. オリエンテーション（授業の説明） 領域「環境」とは「ねらい、意義、目的、基本」について 2. 自然物との関わり（1）（学外探検 野山の秋をみつけよう） 3. 自然物との関わり（2）（倉敷市立自然史博物館見学） 4. 身近な植物との関わり（1）植物を育てる（子どもと一緒に育てる植物（秋）・水栽培） 5. 身近な植物との関わり（2）植物を育てる（藍染をしよう） 6. 身近な植物との関わり（3）植物を育てる（柿渋染めをしよう） 7. 身近な自然との関わり 収穫と食育 8. 身近な小動物との関わり 生命の尊さ・生き物をいたわり大切にする保育 9. 乳児期の環境教育（保育の3つの視点・3歳未満児の環境） 10. 幼児期の環境教育（小学校以降の教科等とのつながりと幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿） 11. 身近な素材との関わり 物や道具・リサイクルにかかわる保育 12. 日本の伝統・文化に触れる保育の意義（行事・24節気・記念日・干支・地域文化との関わり） 13. 数量・図形・文字への関心・標識にかかわる保育（標識・文字に親しむ保育の意義と指導における留意点） 14. 領域「環境」の現代的課題 SDGsとは・安全保育について 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省「幼稚園教育要領解説（平成30年施行）」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書（平成30年施行）」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）」フレーベル館 ※参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	演習時に持参する準備品を忘れないで用意する。 授業の中での配布資料は必ず復習をする。				
評価の方法 基 準	講義内容に関する筆記試験（80%） 授業毎に提出する演習レポート・発表（20%）				
履 修 上 の 注 意	積極的な態度で受講すること。 大切なことは授業中に伝えるのでラインを引くなどして覚えること。 配布資料等を綴じるファイルを各自で用意する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	言葉の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	乳幼児の言語及び非言語表現やコミュニケーションの能力を豊かに育む保育者としての理論的背景を確認し、保育実践の構想と方法を教示する。同時に、模擬保育（絵本の読み聞かせ）を通して、保育内容の指導や援助の方法を指導する。到達目標は以下の通りである。 1) 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」「保育所保育指針」に示された保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 2) 乳幼児の言葉の発達と、その過程における諸特徴を理解する。 3) 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育（絵本の読み聞かせ）を構想し、実践する方法を習得する。				
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンス、模擬保育「対象児と状況を想定した絵本の読み聞かせ」の実施計画 2. 言葉の発達と環境 (1) 乳児期 3. 言葉の発達と環境 (2) 幼児前期 4. 言葉の発達と環境 (3) 幼児後期 5. 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容の理解 6. 保育記録作成演習（情報機器及び教材の活用を含む） 7. 言葉を育む保育と構想 (1) 乳児期 8. 言葉を育む保育の実際 (1) 乳児期 9. 言葉を育む保育と構想 (2) 幼児前期 10. 言葉を育む保育の実際 (2) 幼児前期 11. 言葉を育む保育と構想 (3) 幼児後期 12. 言葉を育む保育の実際 (3) 幼児後期 13. 特別な支援を必要とする幼児の言葉の発達の支援 (1) 理論的背景 14. 特別な支援を必要とする幼児の言葉の発達の支援 (2) 保育における実際 15. 試験と解説、まとめ				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』，フレーベル館，2018 年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』，フレーベル館，2018 年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』，フレーベル館，2018 年。 内藤知美 他：『コンパス保育内容言葉第2版』，建帛社，2018 年。				
準備学習の 具体的内容	指定された資料・テキストにより、今回の授業内容の予習をする。模擬保育の準備（選書、練習等）をする。 授業後に内容を振り返り、気づきと学びをまとめる。				
評価の方法 基 準	受講態度（平素の取り組みや学習への参加，協同的学びへの貢献）（40%） 期末試験（60%）				
履 修 上 の 注 意	資格取得科目であることを自覚して受講すること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	別府 祐子・濱田 雄仁・佐藤 尚宏		
授 業 科 目	表現の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	幼児が「表現する過程」を楽しみ、豊かな感性を味わい、表現する意欲を引き出すことが活動の基本である。これを踏まえて、本演習では「領域『表現』のねらいと内容」「保育者の援助姿勢」「幼児期の表現能力」を軸とし、保育実践に臨むための保育技術を修得する。 ・領域「表現」のねらいとその内容についての的確に把握する。 ・表現のための様々な素材や方法を用いた体験を通して、表現のあり方を理解する。 ・保育者として、幼児の表現内容を受容・共感するための基礎的姿勢と技術を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業（身体表現領域）オリエンテーション，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領における「表現」について(担当:濱田) 2. パラバルーンを使った身体表現：基本的な種目の実践と演技構成の考え方の理解（担当:濱田） 3. パラバルーンを使った身体表現の考案①：種目とキューイングの選択(担当:濱田) 4. パラバルーンを使った身体表現の考案②：全体の構成の確認と演技表の作成(担当:濱田) 5. パラバルーンを使った身体表現の発表と相互評価(担当:濱田) 6. 授業（造形表現領域）オリエンテーション，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領における「表現」について，造形表現領域について(造形原理，作品評価，造形能力，指導略案)(担当:佐藤) 7. 技法あそび①：ストリングデザイン，ビー玉ころがし，スパッタリング，フィンガーペイント，指スタンプの動物，クレヨンマール，図画工作教科との関連（担当：佐藤） 8. 技法あそび②：教材研究・パチック，コンテ遊び，幼児のイメージ着想について(担当:佐藤) 9. 技法あそび③：模擬保育授業・ローラー遊び，スクラッチ，ICT 活用(担当:佐藤) 10. 技法あそび④：フロッタージュ，デカルコマニー，マーブリングの援助方法(担当:佐藤) 11. 授業（音楽表現領域）オリエンテーション，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領における「表現」について，音楽表現領域について(音楽的発達，乳幼児の音楽表現の見方，評価の考え方)(担当:別府) 12. 「聴く」ことから始まる音楽表現活動と教材研究，及びその援助方法，表現活動における情報機器の活用について(担当:別府) 13. 歌唱表現の特徴と教材研究，及び援助方法(担当:別府) 14. 音楽表現を取り入れた指導案の立案(担当:別府) 15. 音楽表現を取り入れた模擬保育と振り返り(担当:別府) 定期試験は実施しない				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府) (最新版)，幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) (最新版)，保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) (最新版) 八木正一監修・竹内貞一編著『保育者養成のための音楽表現 模擬実践をとおして学ぶ』大学図書出版 参考書：『ふれあいこどもずかん』（学研教育出版），日本赤ちゃん学会監修，小西行郎，志村洋子，今川恭子，坂井康子編集『乳幼児の音楽表現』中央法規，『うきうきわくわく 身体表現あそび』（高野牧子編著，同文書院）※その他，授業中に適宜資料を配布する。				
準備学習の具体的内容	〔身体表現領域：授業で扱う遊具・用具を用いた指導内容・方法について考えること〕 〔音楽表現領域：指導案作成のための教材研究〕				
評価の方法基準	3つの領域の評価を調整する。 〔造形表現領域：製作ポートフォリオ(80%)，レポート課題(10%)，模擬授業の指導内容・協同製作への貢献度(10%)〕 〔身体表現領域：授業に臨む姿勢・グループ活動への貢献度（20%），パラバルーンの演技構成（30%），パラバルーンの発表内容（50%）〕 〔音楽表現領域:毎回の小課題（20%），指導案・模擬保育（40%），レポート課題(40%)〕				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	別府 祐子		
授 業 科 目	音楽表現の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	領域「表現」の指導に関して、音楽表現を中心として、子どもの豊かな感性と表現力を引き出し、創造性を豊かにするための知識及び指導の技術を習得する。子どもの音楽的発達、生活と音楽とを結ぶ保育の環境構成・教材選択のあり方等について学ぶ。 到達目標は以下の3点である。 (1) 音楽表現に関して、幼児の心情・意識・思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 (2) 音楽表現に関する模擬保育とその振り返りから、保育を改善する視点を身につける。 (3) 音楽表現の保育実践の動向や課題を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 乳幼児の音楽表現の姿 2. 幼児の音楽表現から考察する幼児の心情・認識・思考・動き等 3. 音楽表現の保育実践の動向と課題 4. 音楽遊びの実際①手足や身体を使った音楽表現 5. 音楽遊びの実際②声を使った音楽表現 6. 音楽遊びの実際③アフォーダンスから考える音楽表現 7. 音楽遊びの実際④楽器を使った遊びのアイデア 8. 音楽表現活動や音楽遊びを広げるための言葉かけや環境構成 9. 指導案の構成・音楽的なねらいの検討・教材研究／3歳未満児の音楽遊び：指導案の作成 10. 3歳未満児の音楽遊び：指導案の再検討・模擬保育に向けて 11. 3歳未満児の音楽遊び：模擬保育 12. 模擬保育の振り返り／3～5歳児の音楽表現：指導案の作成 13. 3～5歳児の音楽表現：指導案の再検討・模擬保育に向けて 14. 3～5歳児音楽表現：模擬保育 15. 模擬保育の振り返り／総括 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	八木正一監修・竹内貞一編著『保育者養成のための音楽表現 模擬実践をとおして学ぶ』大学図書出版、駒久美子・味府美香編著『コンパス 音楽表現』建帛社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』				
準備学習の 具体的内容	テキストによる予習・復習。指導案作成を行う授業の前には事前に教材研究を行う。 模擬保育を行う授業の前には、予行をする等の準備を行う。				
評価の方法 基 準	各回の小課題 (20%) 指導案・模擬保育 (40%) レポート課題 (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形表現の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	造形原理を駆使した立体製作を通して、汎用的な造形能力を養うことを目標とする。受講生は、保育実践に用いるための造形玩具を製作し、自らの保育・教育実習において実践と考察を行うことで、幼児の手作り造形玩具への興味関心を理解することができる。また、使いやすさ、色彩のバランス、加工方法に加え、同時に安全に配慮する姿勢を養う。				
授業の内容 進 め 方	1. 廃材素材の工作 コラグラフ (1)素材集め 2. 廃材素材の工作 コラグラフ (2)支持体への定着 3. 廃材素材の工作 コラグラフ (3)ペインティング 4. マリオネット制作の解説、製図配布 5. マリオネット制作：ダンボール切断、着色加工作業 6. マリオネット制作：コーティング加工・完成 7. 秋のコラージュ①素材集め 8. 秋のコラージュ②プリンティング製作・鑑賞 9. 簡単ステンドグラス制作 10. 実習において用いる保育玩具(1)ペープサートの製作方法の説明、台本検討 11. 実習において用いる保育玩具(2)ペープサート製作・試演、鑑賞シート評価 12. 実習において用いる保育玩具(3)ペープサート試演、鑑賞シート評価、総評 13. ダイヤ風制作～風揚げ体験 14. 季節の工作（春）(1)壁面構成、構想 15. 季節の工作（春）(2)製作 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	造形用具を各自で購入すること（セットの中身は別紙にて指示いたします） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、『ふれあいこどもずかん』（学研教育出版） A4 ポートフォリオ・20 ポケット（ライオン・コクヨ・リヒト等のメーカー）、A4 版スケッチブック				
準備学習の 具体的内容	指示した教材・素材等の準備				
評価の方法 基 準	製作に関するレポート提出（10%） ポートフォリオ（80%） 工作活動における指導内容・模擬授業（10%） 授業開始 10 分間を使ってクロッキー（動物・人物）の練習を行う。				
履 修 上 の 注 意	立体作品は随時写真撮影をすること。 自らが工夫して整理を行い、他配布資料と共に写真プリントを A4 ポートフォリオに挿入する。 授業感想レポートは A4 ポートフォリオ P1 に挿入する。 教材費実費必要。 牛乳パック、ペットボトルなどの廃材を洗浄の上、集めておくこと。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	身体表現の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	(授業の主題) 本科目は、領域「表現」のねらいと内容を踏まえて、乳幼児の豊かな身体表現活動に関する知識・技術、環境構成、教材等の理解を深め、具体的な指導法について実践を通して修得する。 (到達目標) 1. 乳幼児の身体表現活動に関する多様な保育実践への理解を深める。 2. 乳幼児の発達段階に応じた身体表現活動を考えることができる。 3. 保育者としての身体表現力を身につけ、身体表現活動を展開することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 乳幼児の身体表現活動の指導と援助について 2. 保育実践における身体表現活動 (1) 型のあるダンスの視点から 3. 保育実践における身体表現活動 (2) 型のないダンスの視点から 4. 身体表現活動の具体的方途と考え方(1) グループ指導案作成 5. 身体表現活動の具体的方途と考え方(2) グループワーク 6. 身体表現活動の模擬実践 (子どもの姿とねらいのつながり) 7. 身体表現活動の模擬実践 (環境づくり) 8. 身体表現活動の模擬実践 (教材の吟味) 9. 身体表現活動の模擬実践 (保育者の動き) 10. 身体表現活動の模擬実践 (言葉かけの工夫) 11. 身体表現活動の模擬実践 (活動の展開) 12. 作品創作 (日常保育の延長から) 13. 作品創作 (行事に関連させて) 14. 作品発表会 15. 模擬保育実践及び作品発表を振り返って 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館) 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	保育指導案作成にかかわる題材や教材探しを自主的に進めておくこと。 個人、グループでの実技演習を行うこと。				
評価の方法 基 準	授業記録・レポート(20%) 模擬保育実践 (50%) 作品発表・実技 (30%)				
履 修 上 の 注 意	ジャージ等の運動ができる服装で履修すること。 体育館用シューズ、身体表現の記録ファイル (A4)、筆記用具を持参すること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	劇表現の指導法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	総合的な表現である劇を主題として基礎と応用に分けて実践演習を行い、乳幼児期の子どもの感性と表現を育むための基礎的な知識と技術を教授する。到達目標は以下の通りである。 1) 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」「保育所保育指針」に示された保育内容の領域「表現」のうち、劇表現に関するものを中心に、そのねらい及び内容を理解する。 2) 乳幼児の表現の発達と、その過程における諸特徴を理解する。 3) 乳幼児の発達過程の各段階において、領域「表現」の中でも劇表現に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想し、実践する方法を身につける。				
授業の内容 進 め 方	1. 劇表現実践 (1) 身体表現の基礎 2. 劇表現実践 (2) 劇的表現の基礎 3. 劇的活動の概要 (1) 歴史と種類 4. 劇的活動の概要 (2) 特徴と意義 5. 劇表現に関する乳幼児の発達 6. 保育内容の領域「表現」における劇的活動 7. 乳幼児の劇遊びの指導 (1) 内容 8. 乳幼児の劇遊びの指導 (2) 環境 9. 劇制作実践 (1) 計画と主題設定 10. 劇制作実践 (2) 脚本 11. 劇制作実践 (3) 配役 12. 劇制作実践 (4) 演技 13. 劇制作実践 (5) 視覚的教材製作 14. 劇制作実践 (6) 練習と予行演習 15. 劇制作実践 (7) 発表と評価、授業のまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』，フレーベル館，2018 年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』，フレーベル館，2018 年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』，フレーベル館，2018 年。 この他，必要に応じて適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	グループ毎に保育実践の準備（劇的活動に関わる製作及び練習等）を行う。 授業後に内容を振り返り，気づきと学びをまとめる。				
評価の方法 基 準	受講態度（平素の取り組みや学習への参加，協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題発表（60%）				
履 修 上 の 注 意	表現活動を伴う授業のため，積極的な態度で受講することを希望する。 グループワークが多いので，受講者同士で積極的にコミュニケーションをはかること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	濱田 雄仁・平岡 敦子		
授 業 科 目	幼児と健康		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	(授業の主題) 領域「健康」の指導について、乳幼児期の心身の発育発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付けるとともに、乳幼児期の健康課題について理解する。 (到達目標) 1. 乳幼児期の身体発育発達について理解できる。 2. 乳幼児期の運動発達について説明できる。 3. 乳幼児期の健康課題について理解できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 幼児期の怪我の特徴や病気の予防 (担当：平岡) 2. 乳幼児期の身体発育・発達 (担当：濱田) 3. 幼児の運動発達の現状と運動発達に影響する要因 (担当：濱田) 4. 乳幼児期の運動発達の特徴と運動が運動発達以外に与える影響 (担当：濱田) 5. 乳幼児の基本的な生活習慣の現状 (担当：濱田) 6. 幼児の生活 (睡眠) リズムの現状とそれに影響する要因 (担当：濱田) 7. 遊びや遊具、施設に関する安全管理と安全教育 (担当：濱田) 8. 乳幼児期の健康課題に関するまとめと筆記試験 (担当：濱田)				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『事例で学ぶ保育内容 領域健康』(萌文書林) 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)				
準備学習の 具体的内容	テキストや様々なメディア等を通じて、幼児の健康に関する今日的課題を認識しておくこと。				
評価の方法 基 準	レポート (10%) 筆記試験 (90%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育学科	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	幼児と人間関係		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	(授業の主題) 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う領域「人間関係」の教育内容に関する知識・技能を身につける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる、現代の乳幼児を取り巻く人間関係とその現代的課題、乳幼児と身近な人や社会生活との関わり等について学ぶ。 (到達目標) 乳幼児の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、乳幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。				
授業の内容 進 め 方	1. 現代社会の乳幼児を取り巻く人間関係とその課題 2. 領域「人間関係」における保育及び教育の目標 3. 乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 4. 乳幼児の自立心および協同性の育ち 5. 乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち 6. 乳幼児期の人間関係の広がり 7. 幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」 8. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	萌文書林編集部『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 ※参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	具体的な保育場面をイメージできるよう、保育関連の雑誌や保育所・幼稚園等のウェブサイトなどから、保育のカリキュラムの実際に触れておくことを求める。				
評価の方法 基 準	発表・レポート課題（20%） 各回の演習シート（20%） 講義内容に関する筆記試験（60%）				
履 修 上 の 注 意	グループでの演習を取り入れながら進める。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	大江 由美		
授 業 科 目	幼児と環境		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	授業の主題 乳幼児を取り巻く様々な事象に興味・関心をもち、好奇心をどのように伸ばすのか。乳幼児が生活や遊びの中で出会う環境の関りについて乳幼児の姿と保育実践とを関連させながら、専門的事項における感性を養い知識、技能を身につける。 到達目標 ① 領域「環境」について知る。 ② 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての環境の意義を理解する。 ③ 幼児の身近な環境との関りにおける認知的発達の特徴と道筋を理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 幼児教育の基本・幼稚園教育要領・保育所保育指針にみる、領域「環境」とは 2. 自然と関わることの大切さ「感性・五感を通して自然をみる」（フィールドビンゴ等で遊ぼう） 3. 身近な植物との関わり(1) 散歩を通して身近な環境に触れる（キャンパス自然マップ作り） 4. 身近な植物との関わり(2) 子ども達と楽しむ飼育栽培（夏の花と野菜の栽培） 5. 身近な自然との関わり(1) 泥だんご作り 6. 身近な自然との関わり(2) 子どもと楽しむネイチャーゲーム（梅ジュース作り） 7. 身近な自然との関わり(3) 五節句とは（七夕飾りを作ろう） 8. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省「幼稚園教育要領解説（平成30年施行）」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書（平成30年施行）」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）」フレーベル館 ※参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	演習時に持参する準備品を忘れないで用意する。 授業の中での配布資料は必ず復習をする。 課題のレポートは調べて環境について知識を深める。				
評価の方法 基 準	講義内容に関する筆記試験（50%） 授業毎に提出する演習レポート・発表（50%）				
履 修 上 の 注 意	グループでの演習を取り入れながら進める。 子どもの気持ちになり、受講者同士のコミュニケーションをはかる。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	幼児と言葉		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 標 標	言葉は人間を特徴づけるものである。乳幼児の言語及び非言語表現やコミュニケーションの能力を豊かに育む保育者としての理論的背景と、関連する児童文化財の表現技術を教示する。 到達目標は以下の通りである。 1) 人間と言葉の関係性と、言葉の機能について理解する。 2) 乳幼児の言葉の発達の概要を学び、保育内容の領域「言葉」について理解する。 3) 乳幼児の言葉の発達を支援する児童文化財の取り扱いの基礎を習得する。				
授業の内容 進 め 方	1. ガイダンス、言葉を育てる児童文化財 (1) 乳児期の絵本 2. 言葉を育てる児童文化財 (2) 幼児期の絵本 3. 言葉を育てる児童文化財 (3) 劇・口演童話・紙芝居等 4. 言葉を育てる児童文化財 (4) 人形劇・ペープサート・パネルシアター等 5. 人間と言葉 6. 言葉の機能 7. 乳幼児の言葉の発達の概要 8. 保育内容の領域「言葉」の基礎的理解 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領』，フレーベル館，2017 年。 厚生労働省：『保育所保育指針』，フレーベル館，2017 年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』，フレーベル館，2017 年。				
準備学習の 具体的内容	指定された資料・テキストにより，次回の授業内容の予習をする。 授業後に内容を振り返り，気づきと学びをまとめる。				
評価の方法 基 準	受講態度（平素の取り組みや学習への参加，協同的学びへの貢献）（40%） 期末レポート（60%）				
履 修 上 の 注 意	資格取得科目であることを自覚して受講すること。				

学 科	保育学科		担 当 教 員	三川 美幸（実務経験あり）・浅野 泰昌 濱田 雄仁・佐藤 尚宏		
授 業 科 目	幼児と表現			科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年	
授業の主題 目 標	本教科では、教育・保育における表現活動の意義と保育実践現場での課題を踏まえ、保育者としての表現指導の技術を高めることを目指す。領域「表現」を中心に、各領域（児童文化、音楽、造形、身体表現）の表現技術を統合し、幼児の遊びにおける総合的な指導・援助力について理解を深める。また、保育援助のありかたについて学ぶとともに、具体的な実践事例の検討や模擬保育等の実践的演習を行う。 到達目標は、以下の3点である。 1) 表現活動の内容および教育・保育的意義を理解する。 2) 保育実践現場における課題をふまえた援助技術・指導力を修得する。 3) 表現活動の様子を振り返り、反省的保育者としての姿勢を身に付ける。					
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション （各表現領域担当による概要説明と表現保育総論） 〔担当：全教員〕 2. オリエンテーション 劇的表現の基礎 ① （緊張をほぐす、関係をつくる） 3. 劇的表現の基礎 ② （体に気づく、呼吸を意識する） 4. 劇的表現の基礎 ③ （イメージをもつ、他者になることを楽しむ） 5. 劇遊びを楽しむ ①（脚本読み合わせ） 6. 劇遊びを楽しむ ②（役作り） 7. 劇遊びを楽しむ ③（演出） 8. 劇遊びに関する模擬保育 〔2～8 回 担当：浅野〕 9. オリエンテーション「領域・造形表現の解説」： 季節の壁面構成 ①説明、素材選びから構成の方法についてスライドショーにおける説明 10. 季節の壁面構成 ②題材決定から協同製作へ 11. 季節の壁面構成 ③製作と鑑賞活動から展示方法についての説明 12. 保育の発表会における舞台装置の製作 方法について、スライドショー説明 13. 舞台装置の題材決定、素材収集、構図取り 14. 舞台装置のダンボール加工、接着、彩色方法 15. インスタレーションについて、子どもの遊びに適した展示方法について 〔9～15 回 担当：佐藤〕 16. オリエンテーション「領域・表現（音楽）についての解説」 17. 遊びと音楽表現 18. 歌・声と音楽表現 19. 楽器と音楽表現 20. 音とイメージ 21. つくる活動と発表について 22. 演習発表 〔16～22 回 担当：三川〕 23. じゃんけんを使った遊びにおける身体表現 24. サーキット遊びにおける身体表現 25. オニごっこにおける身体表現 26. 長縄を使った遊びにおける身体表現 27. 短縄を使った遊びにおける身体表現 28. フープを使った遊びにおける身体表現 29. かけっこ・リレー遊びにおける身体表現 〔23～29 回 担当：濱田〕 30. 総合的表現の検討とまとめ ー各領域との相互関係ー 〔30 回 担当：全教員〕 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容	保育臨床現場での実務経験を活かし、様々な子どもの表現を引き出す保育援助について、実践的な教育を行います。					
テ キ ス ト 教 材	共通テキスト：今井真理編著、『保育の表現技術』、保育出版社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』・『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』 参考書・参考資料等：授業中に適宜資料を配布する。 〔身体表現：高野牧子編著、『うきうきわくわく 身体表現あそび』同文書院〕 〔児童文化：太宰久夫、『子どもと創る演劇』玉川大学出版部〕 〔音楽：今井真理編著、『保育の表現技術』、保育出版社 課題は、随時指示された方法で提出。〕 参考書：今泉明美著他、『子どものための音楽表現技術』、萌文書林〕 〔造形：作品資料をA4 ポートフォリオに入れ替え、整理したうえで提出。 A4 版授業感想レポートはA4 ポートフォリオに挿入する。〕					
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分について予習・復習を行う。 各領域から提示される課題を実施し、授業後に内容の振り返りを行う。					
評価の方法 基 準	表現活動に関するレポート提出（60%）、 表現活動における指導内容・模擬授業・協同製作への貢献度（30%）、 表現活動に関するポートフォリオ（10%）					
履 修 上 の 注 意	オムニバス形式の授業のため、各表現領域における特徴を把握するとともに、習得した知識を統合し、子どもの表現について総合的な視野に基づいて理解を深めること。					

学 科	保育学科	担 当 教 員	別府（実務経験あり）・青木・高須・田中・中田・山		
授 業 科 目	幼児と器楽表現Ⅰ		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	鍵盤楽器の活用を中心として、子どもの豊かな音楽表現を支えるための知識や技術を習得する。様々な音楽遊びの展開の中で、子どもが、イメージを膨らませ、感性豊かに表現するために、保育者として必要な技能の基礎として学ぶ。 到達目標は、次の3点である。 (1) 子どもの音楽表現の過程や、発達について理解し、ふさわしい援助を理解する。 (2) 子どもの豊かな音楽的表現を支えるために必要な「音楽の基礎的な知識」、「読譜力」、「演奏の技能」を獲得する。 (3) 音楽表現の楽しさを実感するとともに、その楽しさの背景にある要素について、音楽の知識・技能と関連付けて理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 保育実践における鍵盤楽器の役割について 2. 読譜に必要な知識・技能の習得及び基本的な運指の確認 3. 両手での滑らかな演奏のために 4. 様々な型による伴奏表現 5. 分散和音による伴奏表現 6. 様々なアーティキュレーションやリズムの表現 7. 複合拍子の表現 8. ト長調の音階と特徴・前期中間試験（実技） 9. 重音の表現 10. 持続音・装飾音の表現 11. ニ長調の音階と特徴・3 連符・16 分音符の表現 12. 前期探究課題：正確な読譜と演奏技能（1）音価、運指、アーティキュレーション 13. 前期探究課題：正確な読譜と演奏技能（2）楽曲の構造や様式の理解 14. 前期探究課題：正確な読譜と演奏技能（3）技能の追求・強弱の表現 15. 前期期末試験（実技）／前期のまとめ／ハ長調のコードについて 16. 子どもの歌唱とコード伴奏（1）《てをたたきましょう》《むすんでひらいて》 17. 左手によるメロディラインの表現・弱起の曲の表現 18. ヘ長調の音階と特徴・左右のバランスを考慮した表現 19. 転調（平行調）を含む曲の表現・半音階 20. 強弱の表現方法 21. フレーズ感を捉えた表現 22. 様々な音色の表現・後期中間試験（実技） 23. 子どもの歌唱と保育者の援助（1）《おかたづけ》《おててをあらいましょう》 24. 子どもの歌唱と保育者の援助（2）《幸せなら手をたたこう》《あくしゅでこんにちは》 25. 子どもの歌唱と保育者の援助（3）《おおきなたいこ》 26. 後期探究課題：表現力（1）正確な音価、運指 27. 後期探究課題：表現力（2）楽曲の構造や様式の理解 28. 後期探究課題：表現力（3）曲想や音色、豊かな表現の追求 29. 後期のまとめ／後期期末試験（実技） 30. 音楽表現の楽しさと保育者の援助／今後の課題設定 ※に示した内容については、それぞれの内容について、各回でそれぞれ単独で学ぶ場合と、複数の内容を含む楽曲の学習を通して複合的に学習していく場合とがある。それは、これまでの鍵盤楽器演奏経験による。				
実務経験を 活かす内容	中学校音楽教諭としての実務経験を生かし、子どもが感性豊かに表現するための指導法や、保育者自身の表現のあり方について、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	本廣明美・加藤照恵編著『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べるピアノ 1, 2, 3』ドレミ楽譜出版社、または各クラスの担当教員から指示されたテキスト／小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社／内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』／文部科学省『幼稚園教育要領』／厚生労働省『保育所保育指針』				
準備学習の 具体的内容	毎回の授業で、指示された課題について、予習・復習を行う。 毎日 30 分以上の準備学習を行うことが望ましい。				
評価の方法 基 準	毎回の授業における課題の達成度（20%） 中間試験（前期・後期各 1 回）（20%） 期末試験（前期・後期各 1 回）（60%）				
履 修 上 の 注 意	単位認定には、(1) 前期・後期それぞれ 3 分の 2 以上出席していること、(2) 決められた楽曲の学習を修了すること、が必要である。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	別府・青木・高須・田中・長岡・中田・山・横溝		
授 業 科 目	幼児と器楽表現Ⅱ		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	鍵盤楽器の活用を中心に、子どもの豊かな音楽表現を支えるための知識・技術を高める。具体的には、子どもの音楽的発達をふまえたうえで、子どもが自分なりのイメージをもって、感性豊かに歌唱表現するための伴奏法や表現方法、指導のあり方等について、実践的に学び、理解する。 到達目標は次の3点である。 (1) 子どもの発達を理解したうえで、その発達にふさわしい楽曲の特徴を理解し、実践で活用できるレパートリーを25曲以上持つ。 (2) 子どもの豊かな表現を支えるための弾き歌いの表現技能を身に付ける。 (3) 歌詞の内容をイメージしたり、曲の音楽的特徴を理解したりすることにより、豊かな表現につなげることができる。				
授業の内容 進 め 方	1. 子どもの歌唱表現とその発達の過程／保育者の援助について／へ長調のコード 2. コード伴奏《いとまき》①／コード伴奏《イルカはザンブラコ》① 3. 春の季節のうた②：(1) 曲の特徴を捉える 4. 春の季節のうた：(2) より豊かに表現する 5. 梅雨の季節のうた②：(1) 曲の特徴を捉える 6. 梅雨の季節のうた：(2) より豊かに表現する 7. 夏の季節のうた②：(1) 曲の特徴を捉える 8. 夏の季節のうた：(2) より豊かに表現する／前期中間試験（実技） 9. 園生活のうた②：(1) 曲の特徴を捉える 10. 園生活のうた：(2) より豊かに表現する／前期末課題①：(1) 正確な音価で演奏する 11. 行事のうた②：(1) 曲の特徴を捉える／前期末課題：(2) 歌と伴奏のバランスを意識する 12. 行事のうた：(2) より豊かに表現する／前期末課題：(3) より深い曲の解釈を行う 13. いろいろうた①：(1) 曲の特徴を捉える／前期末課題：(4) 歌詞の内容・曲想・音色等を意識する 14. いろいろうた：(2) より豊かに表現する／前期末課題：(5) 豊かさの追求 15. 前期のまとめ／前期期末試験（実技） 16. 秋の季節のうた①：(1) 曲の特徴を捉える 17. 秋の季節のうた：(2) より豊かに表現する - 実習課題②：(1) 曲の特徴を捉える 18. 実習課題：(2) より豊かに表現する 19. 実習課題：(3) 歌唱指導の展開を考える 20. 冬の季節のうた②：(1) 曲の特徴を捉える 21. 冬の季節のうた：(2) より豊かに表現する 22. いろいろうた①：(1) 曲の特徴を捉える／後期中間試験（実技） 23. いろいろうた：(2) より豊かに表現する 24. みんなのうた（動物）②：(1) 曲の特徴を捉える／後期末課題①：(1) 正確な音価で演奏する 25. みんなのうた（動物）：(2) より豊かに表現する／後期末課題：(2) 歌と伴奏のバランスを意識する 26. みんなのうた②：(1) 曲の特徴を捉える／後期末課題：(3) より深い曲の解釈を行う 27. みんなのうた：(2) より豊かに表現する／後期末課題：(4) 歌詞の内容・曲想・音色等を意識する 28. 後期末課題：(5) 豊かさの追求・指導場面の想定 29. 後期のまとめ／後期期末試験（実技） 30. 行事のうた：(2) より豊かに表現する／4月のうた ※上記の、「春の季節のうた」「園生活のうた」「みんなのうた」等はテキストのカテゴリーを示す。その後に記載している、○で囲んだ数字は習得すべき最低曲数を示す。各カテゴリーから、○で囲んだ数字の分だけで、任意で選曲して、学習に取り組む。○で囲んだ数字以上の曲に取り組むことは差し支えない。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	小林美実編『子どものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続 子どものうた200』チャイルド本社、今泉明美・有村さやか編著『子どものための音楽表現技術―感性と実践力豊かな保育者へ』萌文書林、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』				
準備学習の 具体的内容	毎回の授業で、指示された課題について、予習・復習を行う。 毎日30分以上の準備学習を行うことが望ましい。				
評価の方法 基 準	毎回の授業における課題の達成度（20%） 中間試験（前期・後期各1回）（20%） 期末試験（前期・後期各1回）（60%）				
履 修 上 の 注 意	幼児と器楽表現Ⅰの単位修得済みであることが履修条件。単位認定には、(1) 前期・後期それぞれ2/3以上の出席、かつ (2) 弾き歌い25曲以上の学習修了（後期末試験まで）、が必要。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	三川 美幸(実務経験あり)		
授 業 科 目	幼児と歌唱表現Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	子どもの心身の育成に必要な保育者の豊かな歌唱表現技術を習得する。また、手遊びうた・わらべうたをはじめとする幅広い子どものうたのレパートリーを拡充し、多様な表現様式や内容について理解を深める。 到達目標は、以下の3点である。 1) 子どもの発達過程に即した歌唱活動について理解する。 2) 基礎的な音楽知識およびソルフェージュ力を養い、豊かな表現力を身に付ける。 3) 子どものうたの特徴など歌唱全般について理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 子どもの表現を支える保育者の歌唱について 2. 歌唱表現技術 / 音楽と音・小節 3. あそびうたの種類/基礎的な楽曲構成 4. あそびうた ① わらべうた・グループ発表/楽曲の形式・音符と休符 5. あそびうた ② 指あそび・手遊び/拍子 6. あそびうた ③ 身体あそび/ リズム 7. あそびうたの発表（試験①）・あそびうたのまとめ 8. 生活のうた ① 日常生活/ 音程と音階 9. 生活のうた ② 園生活・グループ発表/長音階 10. 季節のうた（春）/ 短音階 11. 季節のうた（夏）/ 調の種類・音階の種類 12. 季節のうた（秋）/ 和音のしくみ 13. 季節のうた（冬）/ コードネーム 14. 行事のうたのまとめ・グループ歌唱 15. 試験（試験②）とまとめ				
実務経験を 活かす内容	教育および保育臨床現場での実務経験を活かし、発声の歌唱技術に加え、様々な子どもの歌に関する音楽知識・曲の理解について実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	1. 小林美実 (2014)「子どものうた 200」チャイルド本社 2. 小林美実 (2014)「続 子どもの歌 200」チャイルド本社 3. 今泉明美他 (2017)「子どものための音楽表現技術」萌文書林 4. 文部科学省「幼稚園教育要領解説（平成 30 年施行）」フレーベル館 5. 厚生労働省「保育所保育指針解説書（平成 30 年施行）」フレーベル館 6. 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成 30 年施行）」フレーベル館 7. 五線譜ノート				
準備学習の 具体的内容	指定された課題について予習（読譜・歌詞の理解）を行い、授業後に復習をすること。 授業の中で、提示された事項について調査を求めることもある。				
評価の方法 基 準	授業への取り組み・課題の達成度（20%） 提出物（20%） 試験（実技）2 回（60%）				
履 修 上 の 注 意	・資格取得に関わる必修科目であることを留意すること。 ・積み重ねによる技術の習得が要求される実技科目のため、欠席の影響に留意すること。 ・自己課題を設定し、人前で歌唱することに慣れるなど、歌唱表現技術の習得に努めること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	三川 美幸（実務経験あり）		
授 業 科 目	幼児と歌唱表現Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	本科目では、幼児歌唱表現Ⅰで習得した基礎的な歌唱表現技術の向上を目指す。また、子どもの表現活動を支える多様な歌唱表現方法への理解を深める。 到達目標は、以下の3点である。 ・子どもの発達過程に即した歌唱援助について理解を深める。 ・基礎的な発声・ソルフェージュ能力を向上させ、多様な表現方法を体得する。 ・子どものうたに関わる基礎知識の深化を図る（歌詞、時代的背景、音楽様式など）。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 子どもの発達と歌唱の援助① あそびうたの発展：座位での活動 2. 子どもの発達と歌唱の援助② あそびうたの発展：大きな動きを伴う活動 3. 聴くことと歌唱活動 4. 身体表現を伴う歌唱活動 5. 子どものうたの世界観① 歌詞とその内容（動物・植物・場所） 6. 子どものうたの世界観② 歌詞と時代的背景 7. 様々な音とボイスパーカッション・グループ活動 8. グループ活動の発表（試験①） 9. 歌の創作 ① 名前のことば 10. 歌の創作 ② 動作・動き 11. 歌の創作のまとめ 12. いろいろなうた ① 行事のうた・生活のうた 13. いろいろなうた ② 外国のうた・歌の世界 14. 催事の歌/ 和声の理解 15. グループ発表（試験②）とまとめ				
実務経験を 活かす内容	教育および保育臨床現場での実務経験を活かし、発声の歌唱技術に加え、様々な子どもの歌に関する音楽知識・曲の理解について実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	1. 櫻井琴音・神谷裕子（2020）「アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現」 2. 幼児と歌唱表現Ⅰのテキスト 小林美実（2014）「子どものうた 200」チャイルド本社 小林美実（2014）「続 子どもの歌 200」チャイルド本社 村上玲子他（2020）「子どもの発達と音楽表現」第2版 学文社 今泉明美他（2017）「子どものための音楽表現技術」萌文書林 3. 文部科学省「幼稚園教育要領解説（平成30年施行）」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書（平成30年施行）」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」（平成30年施行） フレーベル館 4. 五線譜ノート				
準備学習の 具体的内容	指定された課題について予習（読譜・歌詞の理解）を行い、授業後に復習をすること。 授業の中で、提示された事項について調査を求めることもある。				
評価の方法 基 準	授業への取り組み・課題の達成度（20%） 提出物（20%） 試験（実技）2回（60%）				
履 修 上 の 注 意	積み重ねによる技術の習得が要求される実技科目のため、欠席の影響に留意すること。 自己課題を設定し、人前で歌唱することに慣れるなど、歌唱表現技術の習得に努めること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	幼児と造形表現		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 標 目	本演習では、幼児の造形行為から発達の姿を理解することを目標とする。受講生は、造形保育者として必要な知識(1)色の性質(2)光と影(3)立体空間における空気の流れなどの造形原理を修得することで、造形的保育環境を構成する力を養うことができる。更に造形プロセス(発想)におけるモチーフの選択(主題・素材)、工夫を大切に、再構成の中から造形的イメージを追求していく能力を身につける。教材は保育実習・教育実習において実践することを前提としている。				
授業の内容 進 め 方	1. 保育実践における工作の解説(表現と鑑賞)、牛乳パックで車を作ろう(新幹線, 4WD 車, 倉短バス, トラック) 2. シュービングフォームのフワフワお絵かき 3. 制作表現: ポップアップカードの制作(1)構造についての解説 4. ポップアップカード制作(2)試作から本製作へ 5. おままごとで用いる野菜・果物の製作 6. 季節の壁面構成(1)説明, 素材選びから構成 7. 季節の壁面構成(2)キャラクター決定から製作 8. 季節の壁面構成(3)製作と完成, 鑑賞活動 9. 動く廃材工作あそび 10. スチレン版画 11. 季節の工作(夏) 12. 風船型抜き(1)～劇発表のための小道具作り 説明と製作 13. 風船型抜き(2)～製作と完成, 鑑賞活動 14. 染め紙あそびによるうちわ制作(1)染紙遊び 15. 染め紙あそびによるうちわ制作(2)組立作業 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	造形用具を各自で購入すること(セットの中身は別紙にて指示いたします) 「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」, 『ふれあいこどもずかん』(学研教育出版) A4 ポートフォリオ・20 ポケット(ライオン・コクヨ・リヒト等のメーカー), A4 版スケッチブック				
準備学習の 具体的内容	指示した教材・素材等の準備				
評価の方法 基 準	製作に関するレポート提出(10%) ポートフォリオ(80%) 工作活動における指導内容・模擬授業(10%) 授業開始10分間を使ってクロッキー(動物・人物)の練習を行う。				
履 修 上 の 注 意	立体作品は随時写真撮影をすること。 自らが工夫して整理を行い、他配布資料と共に写真プリントをA4 ポートフォリオに挿入する。 授業感想レポートはA4 ポートフォリオP1に挿入する。 教材費実費必要。 牛乳パック, ペットボトルなどの廃材を洗浄の上, 集めておくこと。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	幼児と身体表現		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	(授業の主題) 領域「表現」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の心身の発達段階に応じた豊かな感性と表現を育てるための様々な身体表現活動への理解を深め、保育者として求められる表現力や指導力を養う。 (到達目標) 1. 乳幼児期における身体表現活動の特性と子どもの姿について理解し、実践に向けた基礎的知識を得る。 2. 身体表現活動の環境づくり、共に楽しむ保育実践への理解を深める。 3. 保育者としての身体表現力を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 身体表現について 2. 身体表現する心と体(1)ほぐす、かかわる、リズムを感じる 3. 身体表現する心と体(2)リズムに乗って 4. 身体表現する心と体(3)身近な素材を手がかりに 5. 身体表現する心と体(4)イメージを手がかりに 6. 身体表現する心と体(5)型のある踊り 7. 豊かな身体表現を引き出す環境づくり (人的環境に目を向けて) 8. 豊かな身体表現を引き出す環境づくり (物理的環境に目を向けて) 9. 保育実践における身体表現あそび (リズムを手がかりに) 10. 保育実践における身体表現あそび (素材を手がかりに) 11. 保育実践における身体表現あそび (イメージを手がかりに) 12. 保育実践における身体表現あそび (音楽を手がかりに) 13. 作品創作 (テーマ、音楽を手がかりに) 14. 作品創作 (イメージと動きをつないで) 15. 作品発表会、振り返り 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館) 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	授業後の気づきや感じたことを丁寧に振り返り、子どもの姿を描くこと。 子どもの表現活動にかかわる情報 (TV 番組, 美術館, 図書館ワークショップなど) にアンテナを張ること。				
評価の方法 基 準	授業記録・レポート (40%) 模擬保育実践 (30%) 作品発表・実技 (30%)				
履 修 上 の 注 意	ジャージ等の運動ができる服装で履修すること。 体育館用シューズ, 身体表現の記録ファイル (A4), 筆記用具を持参すること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	児童文化学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	人間は文化的存在であり、乳幼児期の子どもの保育・幼児教育には文化的な視点が求められる。本授業では、現在の子どもたちを取りまく社会的・文化的状況をふまえ、理論と実践の両面から、児童文化について学習する。 1) 人間と文化の関わりについて理解し、歴史的背景と現状を踏まえながら、児童文化の概念を把握する。 2) 各論としての児童文化財や児童文化活動の主たる分野の内容や方法を理解する。 3) 関連する保育実践や演習を通して児童文化財等への理解を深め、児童文化観を確立し、児童文化学での学びを保育・幼児教育の実践に役立てられるようにする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンス、児童文化学を学ぶ意義 2 児童文化財各論 (1) わらべうた 3. 児童文化財各論 (2) 手遊び・歌遊び・集団遊び・レクリエーション 4. 児童文化財各論 (3) 絵本 5. 児童文化財各論 (4) 口演童話 6. 児童文化財各論 (5) 人形劇・影絵劇 7. 児童文化財各論 (6) 紙芝居・ペープサート 8. 児童文化財各論 (7) パネルシアター 9. 風土と文化に根差した保育 (1) 文化の多様性 10. 風土と文化に根差した保育 (2) 日本の風土と文化 11. 風土と文化に根差した保育 (3) 日本の風土と文化に根差した保育 12. 日本の風土と文化及び伝統行事に関する発表 (1) 春 13. 日本の風土と文化及び伝統行事に関する発表 (2) 夏 14. 日本の風土と文化及び伝統行事に関する発表 (3) 秋 15. 日本の風土と文化及び伝統行事に関する発表 (4) 冬 16. 児童文化財の社会的意義 (1) 乳児期 17. 児童文化財の社会的意義 (2) 幼児期 18. 児童文化財の社会的意義 (3) 児童期 19. 児童文化財の社会的意義 (4) 成人期 20. 児童文化の成立史 21. 児童文化の概念・定義 22. 児童文化の対象 23. 児童文化の領域 24. 児童文化の現状と課題 (1) 子どもとメディア 25. 児童文化の現状と課題 (2) 文化の継承 26. 児童文化財実践演習 (1) 春 27. 児童文化財実践演習 (2) 夏 28. 児童文化財実践演習 (3) 秋 29. 児童文化財実践演習 (4) 冬 30. 授業のまとめ 定期試験は実施する				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』，フレーベル館，2018 年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』，フレーベル館，2018 年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』，フレーベル館，2018 年。 この他，必要に応じて適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	指定された資料・テキストにより，次回の授業内容の予習をする。模擬保育の準備（製作，練習等）をする。 授業後に内容を振り返り，気づきと学びをまとめる。				
評価の方法 基 準	受講態度（平素の取り組みや学習への参加，協同的学びへの貢献）（40%） 各期末課題（60%）				
履 修 上 の 注 意	積極的な態度で受講することを希望する。 知識や技術の修得だけでなく，考える態度や物の見方や考え方を培う姿勢を重視する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	平岡 敦子（実務経験あり）		
授 業 科 目	乳児保育Ⅰ		科 目 区 分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	乳児がこれから生きていく力を獲得していく過程を理解するための基礎的要素として、乳児期の子どもの心身の発達について学び、保育者として乳児の生命の保持および安全の確保に努めながら生理的欲求を満たすための健康の保持増進および発育発達の支援についての理解を深める。また、乳児期の基本的生活習慣、子育てを通して得られる親の育ち・家族の役割について学習し、子どもの育ちと保護者の養育力獲得を支援するために必要な基本的知識の理解を深める。 乳児保育Ⅰでは、これら乳児保育の技術を習得するために必要な基礎的知識を学習することを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	本科目は以下のようにすすめていく。 1. オリエンテーション 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2. 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3. 保育所における乳児保育 4. 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 5. 家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 6. 3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場 7. 3歳未満児の生活と環境 8. 3歳未満児の遊びと環境 9. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 10. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり 11. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 12. 乳児の計画・記録・配慮とその意義 13. 保護者、職員間の連携・協働 14. 自治体や地域の関係機関等との連携・協働 15. まとめと試験				
実務経験を 活かす内容	助産師としての臨床経験を活かして、保育の現場における乳児の健康および発達状態の理解と考察、保健活動を実践するために必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	主要テキスト：『乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新基本保育シリーズ⑬』公益財団法人児童育成協会（中央法規出版） 『保育所保育指針』 参考図書：『改訂 乳保育の基本』阿部和子（萌文書林）				
準備学習の 具体的内容	履修にあたって、生物学、保健で学んだ保健活動や身体の仕組みについて見直しをしておくこと。子どもや子育てに関する社会的報道に関心を持ち、それらのリソースについて考察し授業に臨むこと。				
評価の方法 基 準	定期試験（80％）、演習課題（20％）				
履 修 上 の 注 意	履修にあたって、子どもの保健で学習したこと（生命のはじまり、心身の発達の特徴など）を理解したうえで授業に参加することが望ましい。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	三好 年江		
授 業 科 目	乳児保育Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目	<主題> 3 歳未満児の成長・発達の特徴を踏まえた乳児保育のあり方を理解し、乳児保育における環境づくり・援助・配慮等を具合的な実践につなげる知識や技術を習得する。 <目標> ・3 歳未満児の成長・発達過程を踏まえた生活や遊びの援助・配慮について理解する。 ・3 歳未満児の生活や遊びにおける環境づくりを具体的に学ぶ。 ・演習を通して3 歳未満児の保育に求められる知識と技術を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業オリエンテーションおよび乳児保育の基本 2. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活 ①排泄の発達とその援助・環境 3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活 ②睡眠の発達とその援助・環境 4. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活 ③食の発達とその援助・環境 5. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活 ④着脱・清潔の発達とその援助・環境 6. 0 歳児の遊びと援助・環境の実際 7. 1 歳児の遊びと援助・環境の実際 8. 2 歳児の遊びと援助・環境の実際 9. 3 歳未満児の保育教材について 10. 保育教材（手作り玩具）研究発表 11. 保育教材（手作り玩具）の評価と改善 12. 3 歳未満児保育における配慮の実際（「健康・安全」・「集団生活」・「移行期」を中心に） 13. 3 歳未満児の計画について 14. 3 歳未満児の指導計画の作成 15. 保育所以外の児童福祉施設および家庭的保育等について、乳児保育のまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しないが、本授業の参考書となる書籍は以下のとおりである。 ・厚生労働省『保育所保育指針解説書』平成 30 年施行. フレーベル館 ・茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会「見る・考える・創り出す『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』養成校と保育室をつなぐ理論と実践」萌文書林 2019 ・待井和江・福岡貞子『乳児保育』ミネルヴァ書房 2022 その他、各回の授業で適宜プリントを配布する。				
準備学習の具体的内容	各回の授業終了時に予習・復習内容について具体的に説明する。				
評価の方法基準	授業毎に提出する振り返りシート(10%)，演習内容・教材発表 (30%)，指導計画 (30%)，レポート (30%)				
履 修 上 の 注 意	特になし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	平岡 敦子		
授 業 科 目	子どもの健康と安全		科 目 区 分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	子どもの健康を守るために一人ひとりの特性に沿った保育活動をおこなうことが求められる。保健的観点および、危機管理や予防の視点に基づく保育の環境整備や健康・安全管理の実施など、実践的な力を身につけることを目標に、保育者として身につけるべき医療・保健的要素を含む保育の知識・技術について学ぶ。				
授業の内容 進 め 方	本科目は以下のようにすすめていく。 1. オリエンテーション 子どもの健康と保育の環境と保健的対応の基本的考え方 2. 子どもの保健に関する個別対応と手段の健康 3. 衛生管理 ※子どもの保健の「感染症と免疫」を復習しておくこと。 4. 感染症の発生と予防・対応 ※保育所感染症ガイドライン参照 5. 子どもの安全と事故 6. 保育と危機管理 7. 災害への備え 8. 個別的対応配慮を必要とする子どもへの対応 9. 障がいのある子どもへの適切な対応 10. 保育における健康教育 11. 保育における保健計画と評価 12. 子どもを中心とした家庭・専門機関・地域・保育現場の連携と協働 13. 緊急時の対応 (1)：体調の不良やけがの対応・救急処置 14. 緊急時の対応 (2)：救急蘇生法 15. まとめと試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	主要テキスト：『子どもの健康と安全 新基本保育シリーズ⑩』公益財団法人児童育成協会（中央法規出版） 『保育所保育指針』 参考資料：子どもの保健の授業で使用したテキスト				
準備学習の 具体的内容	授業資料やテキストの予習・復習をする。授業の出席前後は、関連する事項については1年次に履修した「子どもの保健」を用いて、特に専門用語など積極的に復習すること。				
評価の方法 基 準	定期試験（80%）、レポート課題（20%）				
履 修 上 の 注 意	積極的に演習・グループワークに参加し課題に取り組むことを求める。 子どもの保健の授業内容に基づくものであるため、履修前に復習しておくこと。 演習の指示がある時は、動きやすい服装による参加を求めることがある。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	障がい児保育		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	保育所で保育を行う際に、障がいの定義や障がい児保育の動向を概観し、障がいのある子どもの理解及びその保育内容、保護者への支援、関係機関との連携のあり方などについて理解する。また、障がいの有無にかかわらず、同じ時間・空間で保育を行う意義や目的を理解し、さまざまな違いを持った人達がその違いを認め合い、互いに支え合って生きていくインクルーシブな社会が自然であることについて理解する。 授業の到達目標 1. 障がい児保育を支える理念を理解する。 2. 障がい児等の理解と保育における発達の援助を理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際を知る。 4. 家庭及び自治体・関係機関との連携の在り方を知る。 5. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題を知る。				
授業の内容 進 め 方	1. 障がい児保育を支える理念 2. 子ども理解の重要性 3. 合理的配慮とは 4. 障がい児保育の基本 5. 戦前、戦中、戦後から 1950 年代の障がい児保育 6. 1960 年代の障がい児保育 7. 1970 年代の障がい児保育 8. 1980 年代から 1990 年代の障がい児保育 9. 2000 年以降の障がい児保育 10. 園生活に「参加する」ということ 11. インクルーシブなクラスづくり 12. 「学び」を問い直す 13. 障がいのある子どもと共に学びを創造することは可能か 14. 家族との出会いからの出発・家族理解のために 15. 連携の質を高める家族支援・家族同士のつながりを創る支援 16. 連携の必要性・関係機関の名称事業について 17. 地域における自治体や関係機関との連携・協働と実際の課題 18. 小学校における特別支援教育・小学校における特別支援教育の実際・小学校就学までの 1 年間の流れ 19. 就学を前に保護者と向き合い支えるために・小学校との接続期の「今」を生きるために 20. 保育の計画について・計画の作成にあたっての留意事項・子どもの行動観察と記録 21. 個別の指導計画の作成の実際・個別の支援計画 22. 保育における「健康かつ安全な生活」とは 23. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際・事例から健康と安全な園生活を考える 24. 外国籍の子ども・子どもの貧困と保育 25. 子ども虐待と保育 26. 障がいのある子どもを地域で支える人や機関・保健、医療における現状と課題 27. 福祉、教育における現状と課題・支援の場の広がりとなつたり 28. 総まとめ①ー育ちの仲で獲得する人間の機能と障がいについてー 29. 総まとめ②ーさまざまな障がいに対する援助・発達障がいの特性と援助ー 30. 総まとめ③ー重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と援助ー 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	若月芳浩・他（編著）（2021）『障害児保育』ミネルヴァ書房 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価し、全 30 回分の総点を 100 点に傾斜配点し、評価する。（100%） 授業時間数（30 回）の通年 1/3 以上の欠席をもって科目を放棄したと判断する。				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	社会的養護Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	（授業の主題） 施設養護及び家庭養護の実際について学ぶとともに、社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術について理解する。 （到達目標） 1. 施設養護の実際について理解できる。 2. 家庭養護の実際について理解できる。 3. 社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術について説明できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 社会的養護における子ども理解 2. 社会的養護を取り巻く社会環境 3. 社会的養護と特別養子縁組 4. 社会的養護の内容①アドミッションケア 5. 社会的養護の内容②日常生活支援 6. 社会的養護の内容③治療的支援 7. 社会的養護の内容④自立支援 8. 社会的養護の内容⑤リービングケア 9. 社会的養護の内容⑥アフターケア 10. 社会的養護におけるソーシャルワークの意義 11. 社会的養護におけるソーシャルワークの実際 12. ケアプラン（自立支援計画）の意義 13. ケアプラン（自立支援計画）の策定 14. 第三者評価・自己評価 15. まとめ・定期試験				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	杉山宗尚・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』萌文書林 2021 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度（10%）、コメントシート（30%）、定期試験（60%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育学科	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	子育て支援		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育カウンセリング）について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、演習及び実践事例等を通して具体的に理解する。 授業の到達目標 1. 保育士の行う子育て支援の特性を理解する。 2. 保育士の行う子育て支援の展開を理解する。 3. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）を知る。				
授業の内容 進 め 方	1. 保育カウンセリングの基本的考え方 (1) 保育カウンセリングの必要性 (2) 保育カウンセリングとは (3) よい関係を構築するために (4) 傾聴について 2. 保育現場で使えるカウンセリング技法 (5) ペーシング (6) うなずき、あいづち (7) 伝え返し (8) ミラーリング、私メッセージ (9) リフレーミング (10) 勇気づけ、がんばり見つけ (11) モデリング、ピアサポート (12) アサーション、ソリューション・フォーカスト・アプローチ 3. 保護者にかかわる保育カウンセリング (13) 保護者との信頼関係 (14) かかわり方のポイント (15) 関係づくりのポイント 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	諸岡祥直・大竹尚子（編）（2020）『スキルアップ 保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック』誠信書房 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分及びGoogle Classroom にあがる資料を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価し、全 15 回分の総点を 100 点に傾斜配点し、評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	木戸 啓子・大江 由美		
授 業 科 目	保育実習Ⅰ（Ⅰ）		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期（集中）
授 業 の 主 題 標 目	（授業の主題） 保育所等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して子どもや保護者支援について総合的に理解する。保育の計画・観察・記録及び自己評価等、保育士等の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 （到達目標） 乳幼児や保育士等とのかかわりを通して、学内で習得した教科全体の知識や技能などを総合的に実践する応用能力を養うこと、保育の理論と実践の関係について習熟することを目指す。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 乳幼児や保育士等と生活をともにし、保育士等の職務内容と役割、職員とのチームワークなどを体験的に理解する。 （1） 保育所等における一日の生活内容、活動・休息のリズム、生活の流れを体得する。 （2） 養護面・教育面に関わる配慮を具体的に学ぶ。 （3） 安全・疾病防止などに関わる配慮と処置について学ぶ。 2. 実習生自身が種々の働きかけをすることによって、自らの子ども観や保育観を確立し、将来の保育士等としての自覚を高める。 （1） 保育の計画の仕方を学ぶ。 （2） 各年齢の発達過程に応じた乳幼児の生活や遊びの姿の違いを知り、保育内容を立案する。 （3） 保育に必要な環境整備の実践や環境構成の方法を学ぶ。 （4） 子どもの健康と安全に即した保育内容を知る。 （5） 家庭や地域社会との関係を実践的に学ぶ。 （6） 保育実践の評価の仕方を学ぶ。 3. 専門職としての保育士等の役割と職業倫理を自覚する。 （1） 保育士等の職務内容や勤務体制を体験的に学ぶ。 （2） 保育士等の役割と職業倫理を知る。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	岡山県保育士養成協議会編「保育所実習の手引き」 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい 天沼寧・加藤彰彦編『用字用語新表記辞典』第一法規 全国保育士会編『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』全国社会福祉協議会				
準備学習の 具体的内容	実習施設での実践に際して、謙虚な姿勢かつ積極的な参加が望まれる。 守秘義務を守ることを大前提とし、利他の精神で臨むことが求められる。				
評価の方法 基 準	実習日誌の提出による内容の評価（20%） 課題・レポートなどの提出による内容の評価（20%） 実習施設における実習評価（60%）				
履 修 上 の 注 意	実習生の日常の生活習慣や技能は子どもの育ちに影響する。良識的な生活態度が望まれ、物事に積極的に取り組む姿勢が必要である。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇・長櫓 涼子		
授 業 科 目	保育実習Ⅰ(2)		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期(集中)
授 業 の 主 題 目 標	(授業の主題) 施設を利用する人々と直接かかわりながら、子どもや利用者の特性、職務内容、施設のあり方等について理解を深める。また、これまで主に本学で学習してきた理論、知識、技術を実践に応用し、福祉援助における理論と実践の統一を目指すことを目的とする。 (到達目標) 1. 実践を振り返ることができる。 2. 自身の課題を明確化することができる。 3. 自らの保育観を構築することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	保育実習Ⅰ(2)は、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、利用児・者への理解を深めるとともに施設の機能とそこでの保育士の職務について体験を通して学ぶ段階であり、「参加実習」と位置づけている。 1. 利用児・者の理解 ① 生活を通した利用児・者の理解 ② 利用児・者の多面的理解 2. 養護活動と養護技術の学習 ① 養護活動の理解 ② 保育士の職務内容、役割の理解 ③ 養護技術の学習 3. 施設の理解 ① 施設の役割と機能についての理解 ② 体験的理解と福祉観の変革・再構築 4. 自己の理解 実習における学びを振り返り、保育士としての自己課題の明確化を図る。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	・岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 ・実習日誌 ・福祉施設実習編集委員会編『保育士をめざす人のための福祉施設実習第2版』みらい、2022年 ・適宜資料、プリント等を配布				
準備学習の 具体的内容	児童福祉施設や障害児(者)支援施設等での宿泊型もしくは通所型の実習であるため、実習施設に関する機能と役割、利用児・者、保育士の役割などについての事前調査等を行う。				
評価の方法 基 準	実習日誌の内容 (50%) 実習施設における評価 (50%)				
履 修 上 の 注 意	実習生一人ひとりの生活態度が問われる10日間の宿泊型もしくは通所型施設での実習である。良識的な生活態度と共同生活する上での自分自身の生活のあり方を整え、実習に臨んでほしい。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	木戸 啓子・大江 由美		
授 業 科 目	保育実習Ⅱ		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期（集中）
授 業 の 主 題 標 目	（授業の主題） 保育所の役割や機能，保育士等の業務内容や職業倫理について，具体的な実践を通して理解を深める。保育実習Ⅰの経験を踏まえ，保育のPDCA 及び自己評価等について実際に取り組み理解を深め，具体的な実践に結びつけて理解する。実習における自己の課題を明確化する。 （到達目標） 保育所保育の内容を理解し，保育指導のあり方や保育所等が果たす地域の子育て支援について，実践を通して理解を深める。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 保育所等の役割や機能の具体的展開を知る。 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所等の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解を進める。 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育士等の動きや実践の観察 （3）保育所等の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携を知る。 （1）環境を通して行う保育，生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 （2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 （3）地域社会との連携 4. 指導計画の作成，実践，観察，記録，評価を体験する。 （1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士等の業務と職業倫理を学ぶ。 （1）多様な保育の展開と保育士等の業務 （2）多様な保育の展開と保育士等の職業倫理 6. 実習を通じて得た自らの保育観について，自己課題を明確にする。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	岡山県保育士養成協議会編「保育所実習の手引き」 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい 天沼寧・加藤彰彦編『用字用語新表記辞典』第一法規 全国保育士会編『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』全国社会福祉協議会 ※ 参考図書の提示や資料配布などは，配属先実習施設から指示がある。				
準備学習の 具体的内容	実習施設での実践に際して，謙虚な姿勢かつ積極的な参加が望まれる。 守秘義務を守ることを大前提とし，利他の精神で臨むことが求められる。				
評価の方法 基 準	実習日誌の提出による内容の評価（20%） 課題・レポートなどの提出による内容の評価（20%） 実習施設における実習評価（60%）				
履 修 上 の 注 意	実習生の日常の生活習慣や技能は子どもの育ちに影響する。良識的な生活態度が望まれ，物事に積極的に取り組む姿勢が必要である。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇・長櫓 涼子		
授 業 科 目	保育実習Ⅲ		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期（集中）
授 業 の 主 題 目	（授業の主題） 保育実習Ⅲは、これまでの実習や授業などを踏まえた仕上げの実習と位置づけられる。実習先施設の実習指導担当者の指導のもとに、実践的支援に取り組み、自己評価・反省を行うことを目的とする。 （到達目標） 1. 利用児・者のニーズを把握することができる。 2. 利用児・者のニーズに応じた個別支援計画を作成し、実践することができる。 3. 施設実習全体を総括し、自身の課題を明確化することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	保育実習Ⅲは、実習先施設が保育実習Ⅰ（2）と同じ種別の場合には、実習内容を深め、個別的な支援計画づくりとそれに基づく実践力を培う。 1. 個別的な支援の計画と実践 ① 利用児・者の持つ特性や課題に対する支援計画などを理解 ② 支援計画に基づいた実践と評価 2. 保育士の態度と技術の習得 ① 利用児・者との信頼関係の構築 ② 職員（異職種）間の連携のあり方 ③ 利用児・者の権利擁護を進める取り組み 3. 多様な児童福祉施設における多面性と共通性の理解 ① 個々の利用児・者のニーズの把握 ② 施設種別ごとの特徴と種別を超えて共通する課題の理解 4. 施設実習全体を通して ① 実習での実践や学びをもとに自己啓発を進める ② 福祉の現場に触れることにより、福祉観・援助観を構築していく ③ 福祉現場の倫理を学ぶ 定期試験は実施しない				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	・岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 ・実習日誌 ・福祉施設実習編集委員会編『保育士をめざす人のための福祉施設実習第2版』みらい、2022年 ・適宜資料、プリント等を配布				
準備学習の具体的内容	児童福祉施設や障がい児（者）支援施設等での宿泊型もしくは通所型の実習であるため、実習施設に関する機能と役割、利用児・者、保育士の役割などについての事前調査等を行う。				
評価の方法基準	実習日誌の内容（50%） 実習施設における評価（50%）				
履 修 上 の 注 意	実習生一人ひとりの生活態度が問われる10日間の宿泊型もしくは通所型施設での実習である。 良識的な生活態度と共同生活する上での自分自身の生活のあり方を整え、実習に臨んでほしい。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎正宇（実務経験あり）・長櫓涼子・木戸啓子（実務経験あり）		
授 業 科 目	保育実習法 I		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期～2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	（授業の主題）保育実習の意義・目的を理解し、自らの実習の課題を明確にし、実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務等を理解する。 （到達目標）実習の PDCA の方法や内容について学び、実習の総括と自己評価を通して今後の課題設定を行う。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1 年次・前期 4 月～ 保育実習 I （2）に関わる事前事後指導（担当：宮崎） 1. 保育実習の意義および実施基準 2. 保育実習の目標と内容 3. 施設の利用児・者の理解 4. 養護内容と実践（保育士の職務内容、役割） 5. 施設の機能と役割の理解 6. 自己課題の明確化 7. 個人情報取り扱いに関する誓約書の作成 8. 実習施設への提出書類の作成 9. 予防接種および腸内細菌検査等について 10. 事前学習（「学内オリエンテーション」） 11. 事前訪問（「施設オリエンテーション」） 12. 実習課題と達成方法の設定（「実習に向けて」） 13. 実習日程の策定と部分指導の準備 14. 実習のまとめ（「実習を終えて」） 15. 学内における事後学習（実習報告会） 1 年次・後期 12 月～ 保育実習 I （1）に関わる事前事後指導（担当：木戸） 16. 保育実習の意義 17. 保育実習の目標 18. 保育実習の流れ 19. 実習生としての心構え 20. 保育士の守秘義務と実習における留意事項 21. 保育の理解（1）保育の基本 22. 保育の理解（2）保育の内容・方法 23. 保育の理解（3）障がいのある子どもの保育 24. 保育の理解（4）健康及び安全 25. 保育の理解（5）保護者に対する支援 26. 実習の実際 27. 実習における指導計画の作成 28. 実習の準備と留意事項 29. 実習のまとめ（1）自己評価 30. 実習のまとめ（2）実習報告会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	社会福祉施設等での実務経験を活かし、実習生として必要な知識や技能の他、保育士等の役割、職業倫理について、実践的に進めていく。				
テ キ ス ト 教 材	岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」「保育所実習の手引き」 愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会（編集）「保育士をめざす人の福祉施設実習第2版」みらい 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい 天沼寧・加藤彰彦編『用字用語新表記辞典』第一法規 全国保育士会編『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』全国社会福祉協議会				
準備学習の 具体的内容	講義で紹介する解説書など基本的なテキストを各自読むことを求める。 実習施設での実践に際して、謙虚な姿勢かつ積極的な参加が望まれる。				
評価の方法 基 準	実習に取り組む姿勢（30%） 指導案作成課題（30%） レポート（40%）				
履 修 上 の 注 意	保育実習 I 実施にかかわる実習前段階の学内演習であるため、学生便覧掲載の「保育学科学外実習」の基準に満たない場合は、実習を中止する場合がある。 保育・教職実践演習と連携を図りながら進める。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	木戸 啓子・脇本 幸子		
授 業 科 目	保育実習法Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期（集中）
授業の主題 目 標	（授業の主題）保育実習の意義と目的を理解し、保育士等の専門性と職業倫理について総合的に理解し、保育の実践力を習得する。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題を明確にする。 （到達目標）実習における PDCA サイクルを通して、実習内容を共有して体験の深化を図るとともに、今後の研究課題を探ることを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. 指導実習について（担当：木戸・脇本） 2. 実習における指導計画の作成（担当：木戸） 3. 指導案作成の実際（1）月の指導計画（担当：木戸） 4. 指導案作成の実際（2）週の指導計画（担当：木戸） 5. 指導案作成の実際（3）デイリープログラム（担当：木戸） 6. 実習中の留意事項（担当：木戸） 7. 実習に対する自己評価（担当：木戸） 8. 実習報告会（担当：木戸） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	岡山県保育士養成協議会編「保育所実習の手引き」 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい 天沼寧・加藤彰彦編『用字用語新表記辞典』第一法規 全国保育士会編『全国保育士会倫理綱領ガイドブック』全国社会福祉協議会 ※ 参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	保育実習Ⅰ（1）における課題を改善するための自己学習を自主的に行うことを求める。 実習は保育学科で学ぶ全ての科目で得た知識を実践の場で活かすこととなる。特に、専門科目の講義内容を各自で確認しておくことを望む。				
評価の方法 基 準	実習に取り組む姿勢（30%） 指導案作成課題（30%） レポート（40%）				
履 修 上 の 注 意	保育実習Ⅱ実施にかかわる実習前段階の学内演習であるため、学生便覧掲載の「保育学科学外実習」の基準に満たない場合は、実習を中止する場合がある。 保育・教職実践演習と連携を図りながら進める。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)・長櫓 涼子		
授 業 科 目	保育実習法Ⅲ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期 (集中)
授 業 の 主 題 目 標	(授業の主題) 保育実習Ⅰ(2)における経験を踏まえ、事前指導では、保育士として求められる利用児(者)の養護・支援についての理解を深め、実習への意識を高めることを目的としている。また、事後指導では、実習に対する反省と総括を個人と全体で行い、自己課題を明確にすることを目的としている。 (到達目標) 1. 個別支援計画を作成することができる。 2. 実習課題を設定し、実習計画を作成することができる。 3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	事前指導 1. 個別支援計画の作成について (担当：宮崎・長櫓) 2. 実習施設への提出書類の作成 (担当：宮崎・長櫓) 「実習生について」／「評価表」／個人情報の取り扱いに関する誓約書の作成と守秘義務 3. 事前訪問について(「施設オリエンテーション」)(担当：宮崎・長櫓) 4. 実習課題の設定(「実習に向けて」)(担当：宮崎・長櫓) 実習課題の達成方法の設定(「実習に向けて」) 5. 実習計画の作成(1) (担当：宮崎・長櫓) 実習日程の策定 6. 実習計画の作成(2) (担当：宮崎・長櫓) 部分指導の準備 事後指導 7. 実習の自己評価・自己課題の明確化 (担当：宮崎・長櫓) 8. 学内における事後学習(実習報告会) (担当：宮崎・長櫓) 定期試験は実施しない				
実務経験を活かす内容	社会福祉施設等での実務経験を活かし、実習生として必要な知識や技能の他、保育士等の役割、職業倫理について、実践的に進めていく。				
テ キ ス ト 教 材	・岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 ・実習日誌 ・福祉施設実習編集委員会編『保育士をめざす人のための福祉施設実習第2版』みらい、2022年 ・適宜資料、プリント等を配布				
準備学習の具体的内容	児童福祉施設や障がい児(者)支援施設等での宿泊型もしくは通所型の実習であるため、実習施設に関する機能と役割、利用児・者、保育士の役割などについての事前調査等を行う。				
評価の方法基準	課題の提出 (20%) 実習日誌や事前学習、事後学習の内容 (80%)				
履 修 上 の 注 意	実習生一人ひとりの生活態度が問われる10日間の宿泊型もしくは通所型施設での実習である。良識的な生活態度と共同生活する上での自分自身の生活のあり方を整え、実習に臨んでほしい。				

学 科	保育学科		担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育実習			科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・通年	
授業の主題 目 標	<授業の主題> 本科目は、受講生が幼稚園の現場において子どもと直接関わるとともに、幼稚園教諭の職務の実際を知ることを通して、教育者としての基礎的な実践力を養い、これまで学んできた幼児教育の理論と実践の結びつきを体験的に理解することを目的とする。 <到達目標> ・幼稚園教育や幼稚園教諭の役割を理解する。 ・幼児の理解を深める。 ・望ましい勤務態度を身につける。 ・既習の理論や基礎的技術をもとに実践力を養う。 ・将来の幼稚園教諭としての自らの課題を見出す。					
授業の内容 進 め 方	教育実習の概要は、以下のとおりである。 1) 実習期間 教育実習は、以下のとおり、第Ⅰ期（前期に1週間）と第Ⅱ期（後期に3週間）に分けて、計4週間実施される。 第Ⅰ期（観察・参加実習）：令和 5 年 7 月 3 日（月）～ 7 月 7 日（金） 第Ⅱ期（参加・指導実習）：令和 5 年 11 月 1 日（水）～11 月 22 日（水） 2) 実習園 倉敷市教育委員会の協力を得て、倉敷市内の公立幼稚園で実施される。 3) 報告会 各期の実習終了後、学内での報告会を実施する。 4) その他 実習に関する細かな指示は、掲示板や「教育実習法」での連絡を通して行う。 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	<テキスト> 1) 「教育実習実施要項」（第1回の授業で配布予定の「教育実習日誌」の中にある） 2) 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年					
準備学習の 具体的内容	普段から、遊びのポケットを増やすように取り組むこと。手遊びやふれあい遊び、わらべうた、絵本の読み聞かせなどを子どもの前でできるように練習すること。 保育学科の専門科目の各授業で出される課題に、実習で実践できるよう真剣に取り組むこと。					
評価の方法 基 準	課題の提出や義務の遂行状況（20%） 実習日誌・指導案による実習内容の評価(30%) 実習園による実習評価（50%） で総合的に評価する。					
履 修 上 の 意 注	1) 幼稚園教諭二種免許状の取得希望者は、必ず「教育実習法」と併せて履修すること。 2) 履修にあたっては、本学保育学科の「学外実習の条件について」（平成 25 年 4 月 1 日付内規）の履修条件を満たすこと。 3) 実習園への事前訪問（前期・後期の各1回）ならびに実習報告会（前期・後期の各1回）に欠席した場合は、履修放棄と見なす。 4) 受講生は卒業後、保育者として就職するという強い意志を持って履修すること。 5) 実習中止は実習園に多大な迷惑を掛けるため、相当の理由がない限り、認められない。受講生は履修の必要性を事前にしっかり吟味しておくこと。 6) 教育実習ではピアノが重視されることも多いため、各自が時間に余裕をもって、十分に準備しておくこと。					

学 科	保育学科		担 当 教 員	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育実習法			科 目 区 分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期	
授 業 の 主 題 目 標	＜授業の主題＞ 幼稚園教育実習は、理論と実践にもとづく総合的な保育の理解を主目的としている。本科目は、そうした目的の達成に向けて、実習から最大の学習効果を得るために、実習において必要となる知識や技術を事前に学び、実習に向けた自己目標や課題を見出すことを目的とする。具体的には、幼稚園教育や幼稚園教諭の役割の理解、幼児の理解、記録の取り方や指導案の作成などについて学ぶ。 ＜到達目標＞ ・幼稚園の目的や幼稚園教諭の役割、幼児の理解につながる知識をもつことができる。 ・記録や指導案を作成できる。 ・実習内容の考察を行い、自己目標や課題を見出すことができる。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 科目紹介、幼稚園実習の概要、実習日誌の構成 2. 幼稚園教育の目的 3. 幼稚園教諭の役割 4. 事例から学ぶ幼稚園教諭の役割 5. 観察記録の意義と書き方 6. 指導案の書き方 7. 部分指導とその改善 ＜事前訪問を通じた実習園と担当幼児の理解＞ 8. 実習に向けて 準備と構え ＜教育実習第Ⅰ期＞ 9. 実習の振り返りと自己評価 10. 実習報告会 実習の振り返りと相互学習 11. 実習報告会 実習の振り返りと講評 12. 全日指導案の書き方 13. 実習日誌 エピソード記録の意義 14. 実習日誌 エピソード記録の書き方 15. まとめ—実習からみえる自身の良さと課題 定期試験は実施しない					
実務経験を活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 テキスト：「教育実習実施要項」（第1回の授業で配布予定の「教育実習日誌」の中にある） 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年					
準備学習の具体的内容	普段から、遊びのポケットを増やすように取り組むこと。 手遊びやふれあい遊び、わらべうた、絵本の読み聞かせなどを子どもの前でできるように練習すること。 保育学科の専門科目の各授業で出される課題に、実習で実践できるよう真剣に取り組むこと。					
評価の方法基準	実習総括レポート(50%) 授業中の課題(30%) 小テスト(20%) 等により総合的に評価する。					
履 修 上 の 注 意	「教育実習」の履修者は、必ず本科目も併せて履修すること。 授業で課される提出物は提出期限を必ず守ること。 提出遅れは減点対象である。					

学 科	保育学科	担 当 教 員	小久保 圭一郎・木戸 啓子・長櫓 涼子		
授 業 科 目	保育・教職実践演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	<授業の主題> 本授業では、保育の本質や意義、機能等を再確認したり、保育の理論と実践の関係について振り返りを行います。また、保育者に必要とされる資質や能力がどの程度習得されているのかを確認し、実践力を備えた保育者となるための自己課題と目標を設定します。 <到達目標> ・これまで学んだ知識と教育実習、保育実習等で得られた実践力を統合する。 ・授業を通して、保育者としての使命感や責任感、資質を構築する。 ・総合的に保育を実践していくための知識・技術・判断力を習得する。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション (担当：小久保・長櫓・木戸) 2. 保育所等の福祉施設での実践研究①：各施設の概要の理解 (担当：木戸) 3. 保育所等の福祉施設での実践研究②：配属クラス等の理解 (担当：木戸) 4. 保育所等の福祉施設での実践研究③：実践研究に対する評価・反省 (担当：木戸) 5. 保育所等の福祉施設での実践研究④：実践研究に対する総括 (担当：木戸) 6. 保育所等での指導事例の検討①：保育所を中心に (担当：木戸) 7. 保育所等での指導事例の検討②：乳児院・児童養護施設等を中心に (担当：長櫓) 8. 幼稚園での実践研究に向けた準備①：自己課題の設定 (担当：小久保) 9. 幼稚園での実践研究に向けた準備②：エピソード記録の意義と書き方 (担当：小久保) 10. 幼稚園での実践研究に向けた準備③：エピソード記録の実際 (担当：小久保) 11. 幼稚園での実践研究に向けた準備④：全日指導案の書き方 (担当：小久保) 12. 幼稚園での実践研究に向けた準備⑤：全日指導案の主活動の考え方 (担当：小久保) 13. 幼稚園での実践研究①：各園の概要の理解 (担当：小久保) 14. 幼稚園での実践研究②：配属クラスの理解 (担当：小久保) 15. 幼稚園での実践研究③：実践研究に対する評価・反省 (担当：小久保) 16. 幼稚園での実践研究④：実践研究に対する総括 (担当：小久保) 17. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する探究 (担当：小久保) 18. 対人関係能力に関する探究①：社会的養護 (担当：宮崎) 19. 対人関係能力に関する探究②：特別支援教育 (担当：眞次) 20. 幼児理解に関する探究 (担当：長櫓) 21. 学級経営に関する探究 (担当：木戸) 22. 保育内容等の指導力に関する探究①：健康 (担当：濱田) 23. 保育内容等の指導力に関する探究②：言葉 (担当：浅野) 24. 保育内容等の指導力に関する探究③：音楽表現 (担当：三川・別府) 25. 保育内容等の指導力に関する探究④：保健 (担当：平岡) 26. 事例を通した保育教職の理解①：生活場面から (担当：小久保) 27. 事例を通した保育教職の理解②：自由遊び場面から (担当：小久保) 28. 実践的指導力を高めるために必要な資質・能力 (担当：倉敷市公立保育園長) 29. 保育者としての資質・能力と自己課題の再確認 (担当：小久保・木戸・長櫓) 30. 保育者としての資質・能力と目標の設定 (担当：小久保・木戸・長櫓) 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館) ※履修カルテや実習日誌等も適宜使用します。				
準備学習の 具体的内容	自主実習やボランティアを積極的に行い、履修カルテに記録しておくこと。 実習後に履修カルテの自己評価シートを活用し、実習の振り返りを行うこと。				
評価の方法 基 準	提出物 (10%)、小テスト・レポート等 (90%)				
履 修 上 の 注 意	本授業の一環として行われる実習オリエンテーションや実習報告会に出席し、課題を提出すること。 また、実習園での実地研修に積極的に参加すること。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	保育学科全教員		
授 業 科 目	総合演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	(授業の主題) 保育に関する現代的課題について、学生自らが具体的な問題を発見し、研究を行うことを通して、保育の専門的知識や技術を応用力のある総合的な実践力にまで高め、その研究成果を文書や図表等にまとめる能力を培うことを目的とする。なお、本科目の学習過程ではグループ作業における協働のあり方や学び合いの効果を体験的に習得する。 (到達目標) (1) 保育の課題に関して、基礎的資料を踏まえ主体的に問題発見ができる。 (2) 自ら発見した保育の問題を解決に導く方法を体験的に理解する。 (3) 保育の課題に関する問題発見から解決にいたるまでの過程を研究成果としてまとめることができる。				
授業の内容 進 め 方	本科目は、以下の手順に沿って進められる。 (1) 学生は、各教員がその専門領域や関心にもとづいて提示した「総合演習で取り扱う課題」の情報を参考に、自ら取り組みたい課題を明確化する。 (2) 学生は、その課題にもとづき、主体的に学習・研究を進めていくための指導を仰ぎたい「指導教員」の希望を書面で提出する。最終的には、指導教員のもとに複数の学生が配属され、ゼミナール（略称：ゼミ）を構成する。 (3) 各ゼミでは、担当教員の指導助言のもと、グループ共通の課題を設定し、全員が協力して、その課題に取り組む。ただし、課題の進め方は、各研究領域の方法によるものとする。 (4) 最終的に、各ゼミで取り組んだ課題についての学修成果は、『総合演習報告集』にまとめると同時に、年度末に保育学科をあげて開催される「こどもの森」においても公開する。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	演習における学修過程や研究成果をもとに評価を行う。(100%)				
履 修 上 の 注 意	ゼミ配属については、希望調査をもとに調整を行う。				